

がっこうぐらし！ RTA 全員生存END 参考記録

相感

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

人気に便乗してRTAするのはがっこうぐらし！

楽しみですねえ、面白いからやってないホモはやってどうぞ。

\*この記録は途中からガバにつぐガバ、メガトンリーさんがあったため参考記録となります。

二番煎じどころか薄まって薄いけど流れに便乗したやつ末路を見とけよ見とけよー。

R-18タグ脳死でつけてたゾ、申し訳ナス！　そういう要素はないです（断言）

タグでb i m兄貴ではなくb i l m兄貴になってますがこれは長年の勘違いによるタグ付けなので、恥ずかしさいっぱいですが修正せずにこのまま残します。みんなは人の名前をちゃんと、見よう！

（赤面）

## 目次

R T A 開始くパンデミック開始まで	1
屋上く3階制圧カットまで	10
3階制圧くオリチャ―発動まで	21
休憩終わりくラジオ姉貴との出会いまで	33
ドライブくめぐねえが犬になるまで	47
ラジオ姉貴回収く三日目終了まで	62

## R T A開始〜パンデミック開始まで

空前のR T Aブームに便乗したR T A、はっじまーるよー!

今回走るのは「がつこうぐらし!」、様々なキャラクリと豊富なシナリオ、そしてクソみたいな難易度の戦闘がウリの今流行りのゲームです。

計測開始は先駆者様に習って、「はじめから」を選択してからエンディング後の「つづく」が表示されるまでとします。

「卒業」しても大学生編が始まるからね、つづくのは当たり前だよなあ?

キャラクリは……フヨウラツ! ランダムガチャイクゾー!

キャラクリなんて時間かかる行為、R T Aでは必要、ないです。

目標はS Z Kちゃんですがランダムなためここで膨大なりセゲーが始まります(1918敗)

先駆者兄貴はS Z Kちゃんをレアキャラと言っていました、それもそのはずこのゲーム、キャラクリして得られる初期技能が重要になります。

通常プレイならば神スキルになるものも、R T Aでは屑スキルになるものも多いです(工作系)

スタミナ系はいいぞお、ジョジイ……回避系もだ。

………どぼじで男キャラなおおとおおお!!!

失礼、取り乱しました。

そういえば視聴者様方は、このR T Aで女主人公が多いと思ったことありませんか?

ホモだから当たり前だよなあ? とか申し訳ないがノンケはN Gと思つた人はクツキー☆を114514回リピート再生してホラ。ぶつちやけノンケはN Gがあつてるんですけどね初見さん。

このゲーム、友好度、愛情度という数値があり、愛情度M A Xで恋人になることが出来ます。

通常プレイで好みのキャラとイチャコラしてえ!! とソツコーで愛情度をM A Xにしてイチャコラに勤しんだり、最後の最後で死んで

泣き顔を見た兄貴姉貴たちも多いでしょう。

実はこのゲーム、異性間だと愛情度が上がりやすいんですね。なんの問題ですか♂ なんの問題もないよね……これがあるんですわ。

修羅場ア……ですかねえ(ジャガー構文)

ハーレムプレイでよくあるアレです、ハイ……。

愛情度が高いキャラが複数いると修羅場というイベントが発生します。

「命かかっている土壇場ダルオ!? 命かかっているからやってんだよ!!! (開発者インタビュー原文ママ)」

まあ、原作ではありえない、キャラたちが武器片手に大乱闘する姿は見ものではあるんですが(当然バッドエンドルート)

RTAではスキルポイントの取得のため、積極的に彼らと戦うために意外と愛情値が稼ぎやすいというデータがあります。

修羅場が発生すると最悪、リーさんがエンカウントするだけで包丁刺してDEAD ENDさせてくる、どこぞの絢爛舞踏ゲームキャラみたいなことになります。極まった人だどこの状態からクリアさせるとかいうマゾプレイするとか聞きましたが大マジですかねえ?

話が逸れ過ぎましたね、上記の理由からノンケはN……おっファツ!?

君は行方不明になっていた「本田紅葉」くんじゃないか! RTAイクゾー!!

彼は優秀なサバイバーです。スキルに「忍者」を持っています。

アイエエエエエエ!? と思ったあなた、彼は忍者であつてニンジャではない、いいね?

アツハイな方は彼で通常プレイするとかかなり楽にクリアできます。

「忍者」ですが「暗殺」、「発見」、「聞き耳」、「工作」の複合スキルになつてます。

強い! 絶対に強い! と思うじゃろ? 彼はデメリットスキルも持っています。

「寡黙」、口数が少ないため会話によるSAN値回復なしや一部イベ

ントが短縮されるという効果があります。

ただしRTAではこのデメリットはないに等しいです！ それならばやるしかねえ!!

技能ポイントはすべて持久力にまわしてイクゾー!

OPはスキップできないため等速で皆様にお見せします。飽きた?  
俺も見たんだからさ (893敗)

まあ、OP中に今回のRTAのチャートをちやーンと見せます (HME)

王道を行くう、全員生存ルートですかねえ……。

先駆者様をリスペクト……ではなく、これが一番安定してるチャートだからです。

やっぱ数は力なんやなって、拠点防衛とか食料回収やらは一人だと狂いそう、狂う! と忙しくなるのである程度自動でやってくれるキャラが増えるのはタアイム的にもうまあじです。

そろそろOP終わりますね、開始位置はランダムなので下手すると下校中ついてもありますあります。

個人的にはめぐねえと会える「職員室」、ゆきちゃんがいる「教室」、メスゴリラ姉貴がいる「校庭」スタートがベネですねえ。

今回は……「屋上」!

マジすか (棒読み)

まあ、リーさんに挨拶してから校内に戻るってルートに変更し、しますよ (ヌツ)

ほいじゃサクサクつと挨拶して校内にもど……

「どこに行くの紅葉? 手伝ってくれて言っただじゃない」

ンンンンンンンンンンンンマッ!? アアッ!?! (予想外の言葉に混乱中)

なんで? なんで? なんで?

(愛情度) 持ってないじゃーん!! それに引き継ぎプレイじゃなくてニューゲームスタートだからこんな愛情度が5以上のときになるセリフ出すわけないじゃーん!

さてはリセットしすぎてフラグがバグったのか!?

「全く黙ってればかつこいっていう中二病設定捨てない？ 幼馴染だから付き合ってたけど、友達だったらアウトよ、あなた」

あつ、そっかあ（MUR顔）

幼馴染パターンですねコレワ……ver2.0から追加された幼馴染設定ですね。

これによって色々なキャラの幼馴染になれると聞いて、幼馴染属性持ちの友人が歓喜してましたね。ただ幼馴染は敗北者じゃけえ……。ちなみにランダムで幼馴染につくのは珍しいです、こういうのもあるからちゃんときやいなきやいけないのになあ。

ただリセットに疲れたので続行します（RTAの屑）

ここで重要なのはリーさんの言葉には絶対服従することです。

ブツブツパしてもいいですが、不信感を持たれて思わぬところでメガトンコインするのがリーさんです。

発売当初、お姉さん属性に惹かれた奴らの阿鼻叫喚は記憶に新しいですね（当事者）

リーさんの畑仕事を手伝います。若干体力が削れますが、救済処置なのかアウトブレイクのイベント後に全回復してます。

あつ、そうだ（唐突）、へい、リーさん今育ててるものはなんだっけ？

「えっ？ 何ってあなたも一緒にやったでしょ？」

なんとここで育てていた野菜を選べます。

ああ〜いいっすねえ、迷わずキャベツとカボチャを選びましょう。

先駆者兄貴はサツマイモを積もってましたが、カボチャもいいゾ〜これ（先駆者の努力を顧みない屑）

わっせわっせわっせ（少年屋上菜園中）

「……ねえ、土弄って暮らすのもいいと思わない？」

選択肢で「嫌でござる」なんて選ぶもんなら、リーさんのSAN値がぐぐーんと下がって、最悪アウトブレイク後に屋上から飛び降ります（1敗）

無難な選択肢を選びましょう。幼馴染キャラは愛情度が上がりやすいのでルートにはいちや…つたあ！ なんてことになればたあい

むが死にます（真顔）

「……考えておく」くらいならママエアロ。

「ふふっ、言質取ったわよ?」

怖いなあとづまりすところ。

でもりーさんがお嫁さんとか夜の生活は最高やろな（ノンケの屑）

ここでゆきちゃんを連れてめぐねえがやってきます。

オツスオツス。

「こんにちは、少し見学させてもらっていいかしら?」

「わあ〜」

ゆきちゃんが目を輝かせていますが、挨拶だけにしましょう。

序盤は不確定要素が多すぎて、先駆者兄貴たちも阿鼻叫喚になっているので多少はね?

貴重なゆきちゃんの悠里さん呼びを堪能しつつ、心配そうにやわらかスマホを見ているめぐねえに話しかけましょう。ここで話しかけるとかけないのでは、のちのイベントのSAN値減少に変化が出ますので。

「えっ? ええつとなんでもない、なんでもないから大丈夫よ!」

そしてめぐねえが同僚の先生から電話を受けますので、気付かれないうようにスコップを取得しましょう。

忍者ですので片手持ちできる武器には補正がかかるからです。あとシヤベルを先に取得してしまうとくるみちゃんの覚醒イベントがキャンセルされて、最悪死にます（1敗）。通常プレイなら絶望と声優姉貴の迫真ボイスを堪能しましょう。

おつと、校庭から悲鳴が上がりましたね、ほんへ開始です。

「な、なに?」

りーさんが困惑して屋上から校庭を見ようとしませんが止めましょう。

絶賛お肉パーティー ブシヤ生肉だらけだよが開催されているので、ここでもりーさんのSAN値が減少します。

幼馴染キャラじゃなければ振りほどかれるので、りーさんの序盤のSAN値を維持したいのであれば幼馴染を選択しましょう。筋肉ゴ



リラマンでも強制イベントなのか振りほどかれます（10敗）

「様子を見てくる」と言って、屋上から出ます。

「忍者」ですので若干移動スピードが早いため、邪魔されることなく屋上から出られます。

リーさんのSAN値が心配ですが、ここでは経験値のほうが大事です、イクゾー!!

「ま、待って!!」

屋上から出るとくるみちゃんと覚醒素材先輩が駆け上がってきています。

「ツツツ!?!? なにしてんだ、早く逃げろ!!」

「早く行け、ここは食い止める」と選択肢、くるみちゃんと覚醒素材先輩を行かせましょう。

くるみちゃん覚醒イベントで全員のSAN値が下がりますが、なんとかなります、してみせる！（強者の風格）

初、彼らとの戦闘です……が実はここ無限湧きなんですよねえ。

いや解析班によると限度はあるらしいですが、全滅させるには四時間ほどかかるのとあまりの容赦のなさで全員の好感度が0になります。

なので規定のスキルポイントヨが得られたら撤退し、イベントで次の日を迎えます。

見どころさん!? があまりないので今回はここまでにいたします。

\*\*\*

私の幼馴染は忍者だ、と言ったら笑われるだろうか？

本田紅葉。寡黙で何考えてるかわからないと言われて、私以外とはあまり喋らない彼。

ただ話すと優しい人だというのはわかる……わかりにくいけどね。

いつもどおり彼と妹と一緒に登校して、いつもどおり彼と授業を受けて、いつもどおり彼とご飯を食べて、いつもどおり彼と園芸部をし

て過ごす。

冗談半分本気半分で将来のことを話してみた。

「……考えておく」

やったとガッツポーズをする。

彼の考えておく、は「やってもいい」と同義だということは長い付き合いでわかってる。

つまり将来は一緒にいてくれるということだ。

るーちゃんも彼のことを気に入ってるし、三人で暮らすのも悪くない。そう思ってたときに邪魔が現れた。

佐倉先生とゆきちゃんと呼ばれた生徒だ。

せつかく彼と二人きりになれるように、他の部員には辞めてもらったのに見学なんて……ただ変な噂が立つても困る。

それに私と彼の育てた野菜を褒めてくれるゆきちゃんは悪くない。

……視界の端で佐倉先生と彼が話すのを見るまでは、だけどね。

「……大丈夫ですか？」

「えっ？ ええつとなんでもない、なんでもないから大丈夫よ！」

珍しいどころの話ではない。彼が誰かと話すなんて一年に数度あるかないかだ。

佐倉先生が綺麗だからだろうか？ あのとても二十歳を超えた女

性とは思えない童顔に巨乳、クラスの男子たちもいいと言っていた。

……スタイルなら負ける気がしないのにッ。

「きゃあああああああ!？」

甲高い悲鳴が上がった。

なんだろうと声のした方に行こうとすると、彼が肩を掴んで私を止めた。

「行くな……血の匂いがする」

彼の真剣な表情に私は息を飲む。

血の匂いと彼は言ったか？ リアル忍者である彼がそういったのなら『そういうこと』なんだろう。

見たいという好奇心はなくなり、ただならぬ様子を感じ取ったのか震えているゆきちゃんを抱きしめる。

「……様子を見てくる」

「ま、待って!!」

瞬間移動でも使ったんじゃないかって言うほど、彼は早かった。

止める暇もなく、私や佐倉先生の横をすり抜け、音もなく屋上から出ていく。

追いたい気持ちはあった、けれど彼が本気になる事態が本当に起きているなら足手まといでしかない。

数秒後に扉の向こうから怒鳴り声が聞こえ、扉を叩く音が聞こえた。

佐倉先生が確認しに行つて、知り合いの声だったのか扉を開けて迎えられる。

「恵飛須沢さん!?!」

「先生、この人を頼むツ!! 私はあのバカを止めてくるツ!!」

血だらけの男子生徒を床に下ろすと、恵飛須沢と呼ばれた女子生徒は扉を開けようとするが私は肩に手を置いて質問する。

「今はここから動かないほうが良いわ。それに行つたのは私の……その、と、友達よ! 大丈夫、鍛えてるからよつぽどのが無い限り大丈夫よ!」

「そのよつぽどのが起きてるんだつて!!」  
錯乱しているのか、一向に落ち着かない恵飛須沢さんに苛立ちを覚える。

私だつて好きに行かせてるわけがない、けど本当にどうしようもないなら私が行つても邪魔になるだけ……ツ。

「下はもうダメなんだよ、もうあいつらが……」

「あいつら……?」

彼女の言葉が引つかかる。

あいつら? あいつらとはなんなの? そんな考えが頭を巡つたときに、さつきまでうずくまっていた男子生徒がムクリと立ち上がった。

「せ、先輩?」

返事もしない彼はゆらゆらとおぼつかない足取りでこちらに向

かってくる。

表情が見えたとき、私は凍った。

人間の顔じゃない、もつと違うナニカの顔。

アレはなんなの……？

一步一步近づくと彼に、恵飛須沢さんは何も出来ずに立っているだけだった。

ソレは恵飛須沢に手を伸ばしながら……いや、違う、伸ばしてきてるのは私にだ。

「悠里さんッ!!」

ゆきちゃんの声が遠くに聞こえる。

嫌悪感から後ろに下がった私の足に何かが当たる……大きなスコップだった。

『ソレ』は私の制服を掴むとよだれを垂らした口を開けて、私に向かってくる。

……このときの私の感情は怖い、とかではなかった。

——気持ち悪い。

嫌悪感から手を引き剥がすと、地面を転がりながらスコップを手取る。

丁度いい重さ、コレなら眼の前のアレくらいなら潰せると思った。

「……えっ？ 何するの？ 止めて、止めてええええええええええええええええええ!!」

呆けていた恵飛須沢さんの声が聞こえる。

止める？ 何に対して？ コレは私に乱暴しようとしたの？

十年以上、彼のために磨き続けたこの体に対して？

——ふざけないで。

「……ッ！」

感情のままシャベルを振り下ろした。

## 屋上〜3階制圧カッツトまで

投稿初回からガバツたRTA、はっじまるよー。

前回の続きからですが……経験値、うまそうやなほんま。

戦闘ですが、決して一対一を崩さないようにしましょう。

筋肉ゴリラキャラではないので、持久力あるけど横槍でガブリとかされたらそこでリセットです（110敗）

「合気道」のスキルがあれば無双プレイもやれるので、通常プレイなら取っておくといいいづくこれ。

戦術ですが……突っ込め、突っ込めっていったんだYO!!

RTA放棄かと思う人もいるかも知れませんが、これであってます。

屋上に続く階段ですが、くるみちゃんがちそう先輩を連れて行っただおかげでゾンビトレイン状態となっているため、下手にここで応戦すると死にます（10敗）

応戦するなら三人ほど用意して、モップでチクチク階段下へ落としてください。なんとかかなります、ならなかったら？ リセットゾ（真顔）

F00→ 気持ちいい!!（ゾンビなぎ倒し）

階段下にスーパヒーロー着地をしてなぎ倒したあと、折り重なって身動きできない彼らに忍び——ごほん、暗殺を叩き込みます。

期待値は3体ほどですが……やったぜ、なんと四体殺れました。

その後は全力で逃げます（ガチ逃走）

逃げたら、アイテム回収も兼ねて教室を巡りつつ彼らの足を狙って転倒させていきます。

転倒させると一定時間、暗殺が狙えますので序盤のスタミナでも十分無双できます。

序盤詰まってる人は、たぶん頭潰さなきや死なないと思ってる兄貴姉貴が多いと思うので足を狙って転倒、暗殺か追撃が鉄板です。全員、シヤベル姉貴みたいなゴリラじゃないから序盤は中々辛いねんな。

運がいいとここでチョーカー姉貴と出会えますが……ダメみたいですね。

アウトブレイク初期でここでエンカウトすると、屋上に行けと言うだけで合流できるんですが、ママエアロ。

大体三十匹ほど狩れば2レベルほど上がるので、そこで屋上に帰還します。

くくくニンジャ無双中くくく

ぬわああああああああん疲れたもおおおおおん!!

ひたすらに転倒からの暗殺するだけの作業ですが疲れます。

足撃って体術使うゲームみたいだあ（直喩）。

武器であるスコップ兄貴ですが……ダメみたいですね（武器破損）

110弱くらい頑張れやと言いたいですが、15体ほど暗殺叩き込んで壊れないスコップってなんだよ（困惑）

武器は不良からドロップしたポケットナイフに変わっています。

このゲーム、意外と暗殺モーションが凝っていますので、今まで頭蓋骨にスコップかけますね（直刺し）だったのが、邪剣夜行きましようねえ（頸動脈スパーツ）とスタイリッシュになるのでナイフ系モーションはすこ。

2レベルに上がったので「料理」と持久力に割り振ります。

SAN値回復のために「料理」スキルは必須です。好感度上げも出れますしね!

QTEでスイスイ抜けつつ（100敗）、屋上に駆け込みましょう。

全身血だらけですが、今回は幼馴染ルートですので幼馴染キャラがフォローしてくれます。ただしくるみちちゃんが幼馴染の場合は「お前も、お前もそうなんだよな?」と病みルートに入りますので、ヤンデレ好きな方は一度プレイ、しよう!

おい、ビールビール! ビール冷えて………アアア（目力先輩）  
なんでシャベルをリーさん持ってるんですかね!? というかくるみちゃんと言い争いしてるし!?

私知らない!!（錯乱）

……あつ、思い出しました。

りーさんに異性幼馴染がいてなおかつ好感度が一定あつて、害意がある男性キャラに触れられると覚醒りーさんになるのを。

覚醒素材先輩ですが、くるみちゃんを狙うように設定されていますが、位置取りが甘いと他のキャラを狙います。ここでもめぐねえが食い殺されて全滅なんてルートもあります（一敗）

ランダム要素が多いゲームですが、こ（の）フ（ラグ）管（理）無（理）ゾ。

なーんで本走に限ってガバるんですかねえ（チルドレン特有の屑運）

とりあえず二人を落ち着かせましょう。未覚醒シヤベル姉貴は戦闘が出来なくなりますが、工作面では優秀です。積載量が違いますよ、余裕の馬力だ。

というか真面目に言うところまで殺し合ったら、ゆきちゃんめぐねえが自殺して強制的に「二人だけの学園生活」ENDです。

……んんん？ 説得コマンドが出ないんですが、すいませえーんK NSTですけどまあだ時間かかりますかねえ？

忍者、どうにかしろ、まじで。

あつ、「寡黙」スキルのせいで説得コマンドが出ないのか、H A H A H A H A ……ああああああああああ、ふーぎーけーるーなー。

詰んじやう、詰んじやうううううううううううううう！！

……フウ→ー！ スツキリしたぜ。

初っ端から叫んでばかりですが私は元気です。

リカバリー案は既に見つかったぜ！（なおオリチャーな模様）

「紅葉!？」

「お、お前!？」

ハクサイかけますねえ（お水バシャー）。

死んでる覚醒兄貴先輩の体を洗い流して、着ているワイシャツで綺麗に磨きます。

ワイシャツが一個駄目になりますが、男は度胸、なんでもやってみ

るもんさ。

綺麗になつた踏み台先輩の脇に、濡れたワイシャツを捨てると呆然としてる四人の脇を通つてブルーシートを取ります。

それを先輩にかけると選択肢で「(無言で合掌)」と出るため、選択します。

しばらくするとくるみちゃんも膝から崩れ落ちて泣き出すので、放つて合掌を続けましょう。

アニメと同じで、泣きながらゆきちちゃんが抱きついて二人して泣くので、こつちもな、泣きますよ……泣けるかああああああ!!

完全にロスですよ！ ブルーシートだつて貴重な物資な上、ワイシャツも防具なおおお!! 今、素肌！ 半裸の男が男女比1：4の中とか好感度がイグウウウウウウ！

ああああああもうやだああああ!! ……ただRTA続けるんですけどね。

「……優しいんですね、本田くんは」

あ、あれ？ めぐねえがこつちの手を握つてくれました。

血まみれで事前好感度無しなら、ここで怯えられるのが先駆者兄貴からわかるんですがなんのフラグもなしに握られるのはんにやび。

感動的なBGMが流れて、泣き続けるくるみちゃんとゆきちちゃん、で半裸の男子生徒の手を握つてるめぐねえ、シャベルを持って校庭をにらみつけるリーさんとか……なにこれ？

とりあえず暗転してることにはセーフってことだな！（ガバガバ理論）

とりあえず試走も兼ねてこのルート楽しみますよ楽しみ楽しみ。

RTAは楽しんでなきややってけないってソレ一番言われてるから……。

おはよーございまーす!!

昨日のガバ運を取り消すために……飯にしようや。

幸いにしてライターは持ってますねえ！ これも不良系が持つて



いるのでドロップを狙いましょう。

容器は科学実験室から持ってきたビーカーとかで代用します。

鍋は職員休憩室に運がいいとあるんで祈りましょう（20敗）

序盤から料理するチャートを組みたい場合、3Fに何かあるのかなのか、それと回収するものは決めておきましょう。学生鞆に入れられるのは限られてるし、重量オーバーで食われます（15敗）

「料理」レベル1では作れる料理などたかが知れてますが、温かいものどうぞすると追いつめられたときには染み渡りますねえ。強運チャートだここで調味料を入れたりしますが、今回はないです（無慈悲）

最低でもポケットナイフは3本ツモりましょう（迫真）、ツモらなければリセットです（回数不明）

今回はカボチャのスープ（自然風味）を作ります。

切って、煮て、ビーカーに入れただけですが、序盤はこれでもSAN値が回復しますねえ！

「……はん……？」

よく眠れたかい？（宿屋のおじさんムーブ）

こういうときに真っ先に目を覚ますのはゆきちゃんです。ニッコリ笑顔を……出来ないんですよねえ。意外と知られてないというか書かれてないんですが「寡黙」は表情があまり変わりません。

だからRPでは役に立つんですがねえ。

「お汁作ったの？」

選択肢はろくにありませんが無難に「食べ」を選択。

ちなみにここで謎肉を入れて、ゆきちゃんのSAN値直葬するやついるらしいですよ（一敗）

警戒心が強いゆきちゃんですが、おそろおそろ手を伸ばして、ゴクリと一杯。

「……温かいね」

ああ……パパになるんじやあ……。

PC版だと業が深いですがゆきちゃんとパパ棒プレイできるらしいのでロリコン兄貴はプレイして、どうぞ。

ちらほらと起き出してきた面々にスープを渡します。

ここで重要なのは自分の分は作らないこと、男は我慢しとけ……ではなく、こんな状況でも私達を気遣ってくれるんだと好感度アップします。チョロいぜ！

ただここでシャベル姉貴改め、未覚醒くるみちゃんのフォローをしましょう。

覚醒してると開き直れますが、未覚醒状態だとか弱きゴリラと化するので。

「……昨日は、ありがとな。先輩を……先輩を、せん……ぱい……」  
声押し殺して泣き始めるくるみちゃんはたまらねえぜ。

……コホン。ここでの選択肢はそう、ですなえ……あつ、無言しかねえや。

とりあえず泣き止むまでくるみちゃんのそばにいきましょう。

タイムが死ぬ？ オリチャー発動してるから死んだよ（死んだ目）  
ちなみにこのままの状態を維持して、ギリギリ正気を失わせるか失わせない境界で愛情度上げると「幻の先輩」ルートに入りますので、やっけない兄貴はやれ（豹変）

「なんか、言えよ……優しい言葉かけるとかさ」  
「……かけてどうなる」を選んどきましたよか。

この状態のくるみちゃんは、愛情度が上がりやすいです。依存先を探してるといえばソレまでですが。

ビクリと肩を震わせて、泣くくるみちゃんを尻目に、ホモは往く（王者の風格）

本来のチャートに戻しましょう。

まずは3階の制圧です。とりあえず三日目までに3階の制圧を終わらせておけばチョーカー姉貴が見つかります。男なのに女子トイレはいるとかいかんですよ。

「わ、わたしもいきますー！」  
「私もよ」

駄目だ（コマンドー）

ぶつちやけ3階は序盤に制圧する予定なのか、難易度が低いです。

しかしメンバーが覚醒リーさんと要介護キャラ二人は危険が危ない。

くるみ姉貴？ やつは油断さえなけりや基本感染しません、試しに一階に突っ込ませましたが生きて帰ってきました、なんだあの異能生存体!?

寡黙キャラなので説得できるか、不安ですが……おつ、ラッキー。

「お前はここを守れ。やれるのはお前しかない」

幼馴染設定だからですかね、意外と喋ってくれますねえ!

渋々と言った様子ですが、リーさんは従ってくださいます。これで嘸まれて帰ってきたら心中ENDになるので気をつけましょう(1敗)

3階無双は昨日と同じなのでカットするため、キリがいいのでここまでにします。

\*\*\*

シャベルを下ろす、音がする、下ろす、音がする、下ろす音が……。

「もういい!! もういいだろお!!」

誰かが私にめがけてタックルしてくる。

泣きながら、シャベルを握りしめ、奪おうとするので抵抗した。

「ツ!!! 先輩は、先輩は死んでる、もういいって言ってんだろツ!!!」

「邪魔っ、しないでっ!!」

体をバネに彼女……恵飛須沢さんを跳ね飛ばす。

運動は得意ではなかったけど、こういう状況だからかしら、火事場の馬鹿力があるみたい。

「…………」

佐倉先生もゆきちちゃんも突然の出来事で何をしたら良いのかわからないのか動かない。

冷静になってきた頭でどうするか決める。

殺す? いいや駄目、私と彼が生き残るためには他人が必要。

ただ恵飛須沢さんは……「まともじゃない」。

最悪の状況を考えて……………ここで……………。

「ほ、本田くん!? ヒツ——」

佐倉先生の声に驚いた私達は、屋上の入り口を見る。

真っ白なワイシャツを真っ赤に染めた彼がそこにいた。

冷たい目線で私達を見て、次は倒れてるアレを見る。

ただ見られてるだけなのに動けなかった、蛇に睨まれた蛙というのは、こういうことを言うのだろうかと半ば現実逃避気味に考える。

彼は後ろ手で、屋上の鍵を閉めると音もなく歩き……服を脱いだ。

「は、はあっ!?」

恵飛須沢さんが叫ぶが、私は脳内フォルダに彼の裸体を激写するのに夢中だった。

服を脱いだ彼が向かったのは水道。驚く私達を尻目に体についた血を洗い流し、近くにあったバケツに水をためる。

するとそのバケツを倒れているソレにかけた。

「な、何をする——へっ?」

激高した恵飛須沢さんだったが、口を開けて放心する。

私達も同じだった。

彼は血まみれのソレを服で拭っていた。

見る見るうちに綺麗になっていくソレを見て、彼は一息ついたと思ったらブルーシートをかけて……手のひらを合わせて合掌し始めた。

「お、お前……」

「……………」

身動きすることもなく、合掌する彼を見て私は手に持ったシャベルを落とした。

ああそうか、ソレじゃない、私は人間を殺したんだ、それを理解して俯く。

恵飛須沢さんもようやく現実を飲み込めたのか、膝から崩れ落ちて泣き始める。ゆきちゃんが飛び込むように彼女を抱きしめると一緒に泣き始めて大声で泣き始めた。

どうしたら良かったんだろう、そう思いながら佐倉先生の方を見る。

「……優しいんですね、本田くんは」

……ああ、油断なんてするんじゃないかった。

彼を狙うやつなんてどこにでもいるってことを忘れるところだったわ。

\*\*\*

一晚経って、アレは夢なんじゃないかって思った。

嫌な夢で全部が全部、あたしの悪趣味な夢で、明日からは代わり映えのしない毎日が続く。

そう、そんな都合のいい夢。

「……あつ」

あるわけがなかった。

硬い床に、ブルーシート……昨日のは夢じゃなかったと嫌でもわかる。

吐きそうになって蹲る。今でも思い出せる、先輩が園芸部の人に襲いかかって、それで先輩の首にシャベルが――。

「……食べ」

「へっ?」

仏頂面の半裸のやつがあたしの思考をストップさせ……あわわわわわわっわあわ。

「ふ、ふ、服を着ろよっ!?!」

「ない。だから食べ」

あたしの目の前に突き出されたのは、ビーカーの中に入ったカボチャ……のスープだと思う。

不格好で匂いを嗅いで見ても、カボチャな匂いしかない。

「これだけか……あつ」

こいつの後ろにあるプランターを見てわかった。

園芸部が育ててたカボチャを煮てくれたんだと。食料なんてこの状況にあるわけがなく、なんとか用意してくれたのもわかった。

あんな状況で、ビーカーとか鍋とか確保してきたこいつが微妙に恐ろしいけど無いよりはかはマシだろう。

「てか不格好なカボチャだよな、切ったのは誰だよ」

「紅葉くんよ」

素っ気なく言ってスープを啜ったのは、昨日のアイツ……てか目の前のこいつは紅葉っていうのか。

にしてもこいつ、熱くないのか？ ビーカー手に持ったままあたしの目の前に突き出しっぱなしだし。

「熱い」

「早く言えよ!」

慌てて持って、水を啜る。

のどが渴いていて、水分が欲しかった……ツツツツツ。

「あつっう!」

「当たり前でしょ、頑張った彼のご飯に文句つけるからよ」

フツとバカにしたように鼻を鳴らす園芸部員に腹が立つが……作ってくれたやつはあたしが受け取るまで、ずっとこれ持ってたんだよなと思うと怒れなくなった。

もちろんスープ自体は何も味がしない、いや多少はカボチャが溶けて美味しいけど現代食に慣れたあたしの舌はもつと刺激がほしいという。

けれども腹ペコだったのと温かいものだったせいか、あたしたちは無言でおかわりをして食べきってしまった。

気になるのはあたしが食べてた間、こいつはずーつとあたしの側を離れなかった。

……本当は嫌だけど、それでも心配してくれてることくらいはわかった。

ただ、こいつとあの園芸部員は友達みたいだし、その友達と喧嘩しないか心配なのかもしれないけど。

落ち着いたので……紅葉に感謝の言葉を伝えて見ようと思って口を開けた。

「……昨日は、ありがとな。先輩を……先輩を、せん……ぱい……」

ポロポロと涙が溢れる。

昨日アレだけ泣いたのに、まだ泣き足りないのはあたし自身驚いた。

泣いてる最中に、まだ紅葉はあたしの側にいた……こいつ、なんか言えよ。

「なんか、言えよ……優しい言葉かけるとかさ」

「……かけてどうなる」

ぶっきらぼうにそう答えた、アイツの顔は……少し悲しそうに見えた。

### 3階制圧くオリチャー発動まで

りーさんがクソやベー地雷キャラだと思われても、そのとおりと返すしかないRTAはーじまーるよー！

今回は倍速中の3階掃除中に、幼馴染ルートの利点と欠点を軽くお話しします。

まず利点ですが、特定キャラの好感度が上がるためそのキャラに不都合な行動を取り続けなければ、まずハブられたり、彼らの群れに出荷よーなんてことはありません（ないとは言っていない）

ここで高校編の幼馴染ルートの各キャラの簡単なボーナスを書きます。

ゆきちちゃん：全キャラの初期好感度の上昇

クルミ・クルミ：「体力」「筋力」「持久力」ボーナス、戦闘スキル一つランダム取得

りーさん：家庭菜園の初期配置決定、菜園で育てた野菜のボーナスめぐねえ：防衛時に全能力アップ、回避系スキル一つランダム取得  
エロガーターベルト（みーくん）：「知力」ボーナス、工作スキル一つランダム取得、初期スタートがショッピングモール

圭ちやん：「直感」ボーナス、索敵スキル一つランダム取得、初期スタートがショッピングモール

チョーカー姉貴：スキル「ムードメーカー」取得、全キャラとの好感度に＋補正とーになる場合、一定確率でフォロー。開始地点が校内のどこか（ランダム）

正直RTAではくるみ姉貴一択ですが、通常プレイではチョーカー姉貴がおすすめです。サバサバして、他幼馴染ルートのキャラと違って、他キャラと恋仲になっても笑って祝福してくれます（なお裏で号泣してる模様）。ただ彼女と恋仲になったら、二股は止めましょう、絶対バレて「血と嫉妬の狂乱」ENDか「ずっと一緒ダヨ」ENDになります（一敗ずつ）

ここまで読んで兄貴は幼馴染ルートでは利点ばつかやんけ！と思うでしょうが、コレは製作者の罠です。



欠点として幼馴染キャラは主人公、つまりプレイヤーキャラに執着します。

特にゆきちゃんルートではそれが顕著なため、幾人ものホモたちがあのピンク色の悪魔にメガトンナイフされました（敗北数計測不能）RTA的に不利ですが、フォローしてくれるキャラがいるというのはありがたいですねえ。

コメントでも指摘がありました。無双しすぎるとキャラにドン引きされることがあります。そら（元人間を躊躇なく死体にすれば）そうなるよ。

ただそこがRTAプレイヤーとしての腕の見せどころさん!?なので、みんなも通常プレイ、キャラクリランダムプレイしよう!

以前も話しましたが3階は、序盤で制圧を想定してるおかげかかなり制圧が楽です。

無限湧きではないため、教室ごとに「聞き耳」をして大まかな数を把握、釣りだして転倒、暗殺コンボで確実に倒していきます。スタミナが不安であれば、屋上へ続く階段で休息しながら戦いましょう。

二日目は3階を制圧して、バリケード設置できればコレで万事OKだわ（チャー研）

このとき掃除ロッカーなど、一人隠れられそうな場所は片っ端から開けておきましょう。

下手に放置しておく、かれらがこんにちは、ようこそリセットへとなるので目をさらにしましょう（50敗）

おっとそろそろ掃除（暗殺したかれらを窓から投げ捨てる作業）が終わりそうです……なんで等速に戻してるんですかねえ？

「ヒッ……」

おっファッ!? チョーカー姉貴!? 君はトイレに引きこもっているはずのチョーカー姉貴やんけ!?

いや、マズイですよ!?! 3階制圧したから軽く60体以上は屠つてる主人公兄貴の格好は血まみれです。

好感度も愛情度もないチョーカー姉貴がこんな状態みたら……。

「う、うあああああああああああああ!?!?!?」

あつ、おい待てい（ガチ焦り）

脇目も振らずに逃げるチョーカー姉貴にたまらずメニューを開きます（完全なるガバ）

やべえよ……やべえよ……朝飯食べたから（スタミナ回復ボーナス）。

……ここでオリチャーを発動します！

まずはスキル画面に行き、「投擲」と「ホバク・ジツ」を取得します。

本来なら持久力にガン振りチャートなのですが、誤差だよ！ 誤差

!! 序盤なので挽回出来ます出来ませぬ。

そのままメニューを閉じずに、装備画面で適当に投げられるものを選択し、メニューを閉じて「投擲」スキルを使用してチョーカー姉貴の足に当てます。

イヤーツ!!

「ンアーツ!?!」

ギャグみたいな流れですが、忍者をとって投擲すると主人公が喋るようになって当たるとどんなキャラでも上記のような叫び声をあげます。男ならグワーツ、女ならンアーツと……開発スタッフはヘツズ、はつきり分かんたね。

とりあえずこれでコケるので、再度メニューを開いて適当な紐類のアイテムを選択します。

続いて「ホバク・ジツ」を使用します。レベル1程度の縛りでは簡単に抜け出されますがRTA走者には問題ありません。

そのまま肩にチョーカー姉貴を乗せて、ほら（屋上に）いくどー。  
「なっ!? 離せ!! 離せよ!! こんの変態ツ!!!」

ジタバタと暴れるチョーカー姉貴のせいで、ただでさえ少ないスタミナと体力がガリガリ削られて気持ちがいい（錯乱）

かれらのドロップ品とチョーカー姉貴を抱えているせいで、重量オーバー状態のため移動速度がウンコ…ウンコ…（罵倒）。さらに一定時間、QTEが発生し失敗するとチョーカー姉貴が逃げ出したりセツトです。

にしてもチョーカー姉貴、別名シュレディングアのトイレ姉貴と呼

ばれるほどトイレで発見されることが多いのに、二日目、それもトイレから出ていた状態で会うとか割と初めてな経験ですねえ。

本来のチャートだと3階の女子トイレ以外を殲滅して、ゆきちちゃんと好感度稼ぎも兼ねて女子トイレを回ってチョーカー姉貴を探し出すというものでしたが、完全にチャートが壊れちゃった、私のチャート……こんなものお!! (オリチャー)

まあ、原作3巻を持つてる兄貴姉貴たちは見取り図を見ていただくとわかるんですが、3階のトイレは端と端の2箇所にあるので行った先にいなかったらそれだけでロス確定です。

なんとか屋上までつくとチョーカー姉貴を放り投げます。

そいつは好きにしていよいよ!!

「た、たかえちちゃん!」

「ゆき……ゆきなのか!」

泣きながらチョーカー姉貴の胸に飛び込むゆきちちゃんはああとまらねえぜ!

その横でぶつ倒れます (ガバ)

一定時間、限界までスタミナと体力が削れた状態を維持すると気絶状態になります。ちなみに初回では安全地帯まで気絶しない仕様のため安心! ただスタミナが回復しない状態で移動するので、かれらとエンカウントしたらおやつたあいむに突入します (一敗)

気絶のロスタイムは三時間、起きた時間は大体お昼過ぎなので今から必死にバリケードを作れば夜中までには間に合うでしょう。

オリチャーですが不足の自体に備えています、ガバガバなRTAだけれど最低限はね?

さあ、視界が開けてきました、行動開始——

ガバヤン。

ん

「あ????? 起きたのね、紅葉。悪いけど拘束してるわ」

(両腕を縛る紐を見て) なんで? (三代目並感)

(ハイライトオフツのりーさん見て) なんで?? (兄貴ボイス)

ナンデ??? (NRSボイス)



に手をかけて——唸り声で、再び体を縮こませた。

いつまでここにいればいいんだろう、帰りたい、お母さんもお父さんも大丈夫だろうか、ゆきはどうしてるかな？ 泣いてるんじゃないか、と現実逃避気味に必死で何かを考えた。

そんなときだ、外で声が聞こえたのは。

「イヤーツー！」

叫び声じゃない、むしろ奮い立たせる勇猛さを感じた。

そつと扉に耳を当てて様子を伺う……。

「足払いっ！ イヤーツ!!」

「アンサツ・ジツ!! イヤーツ!!」

「アイエエエエエエエ!? アンブツシユ!? アンブツシユナンデ!?」

「ア—イイ……遥かに良い……」

打撃音となにかが吹き出る音、そして誰かが走る音、そして声が聞こえた。

何かなんだかわからなかったけど、ただ一つわかるのは誰かが戦っているということだけ。

しばらく音が続き、そしてパタリと音が止んだ……終わったの、かな？

「……ッ」

わからない、わからないけど動かないよりマシだと自分に言い聞かせて、トイレの扉を開けて、トイレから出て……へたり込んだ。

「な、に……これ」

廊下が血まみれだった。

真つ赤じゃない場所はなく、床、天井、窓ガラスといたる所に鮮血が飛び散っていた。

むせ返る匂いで、胃の中のものを吐き出す。ただ何も食べていないせいか出てくるのは胃液だけだった。

ゴホツゴホツと咳を何度もして、口を拭う。

正直吐き気はまだある、けれどここにいたらやばいそれだけはわかった。

へたり込んでいた足に力を込めて、歩き出そうとしたときぴちやりと血を踏みしめる音が聞こえた。

「……」

「あつ、うわあつ、あああつ」

そこに立っていたのは体全部を赤く染めた男子生徒だった。

右手にはドス黒いナイフを持ち、左手には……何かを引きずっていた。

何かじゃない、人だ。まだ首から血を流してる人だった。

男子生徒はジーツと私を見ると、引きずっていた人を窓から放り投げた。

グシャッと人の体が落ちた音で、私は叫びながらたまらずに走り出した。

「う、うあああああああああああ???!」

「イヤーツ!!」

走り出した私は、足に当たった何かで躓く。

床が血だらけというのも相まって、自分でも驚くくらい滑ってしまった。

まずい、まずいまずいまずい体を動かさなきゃ、動かさないとツ!!

「……」

あつという間に手足を縛られて、身動きが取れない状態にされる。恐怖で体が動けない、何をされるのかわからない。

そいつは私を抱えると歩く。

「なっ!? 離せ!! 離せよ!! ……こんの変態ツ!!!」

抜け出そうと動くが、そいつは悠然と歩いていく。

階段を登って、扉を開いた途端、そいつは私を地面に投げる。

痛みのせいで肺から空気がなくなる……ツツウ……。

痛みで唸っていると複数人の駆け寄る音が聞こえる。仲間がいるのかよ、私はどうな……。――。

「た、たかえちゃん!?」

その声でハッと顔を上げると、泣きそうな顔でこつちを見るゆきが

いた。

「ゆき……ゆきなのか!？」

「よかった、よかっただよおおおおおおお!!」

泣きじやくりながら胸に飛び込んでくるゆきを抱きとめる。

温かいゆきの体に触れて、ドツと感情が溢れてくる、良かった、本当に良かったあ。

視界がブレ、自然に涙が溢れる。お互いに泣きじやくついているとドサリと誰かが倒れる音がした。

私をここまで連れてきた男子生徒だ。

「紅葉ッ!!!」

髪の毛の長い女子生徒……おそらくは三年生の先輩が駆け寄り、必死に体を揺する。

「紅葉くん、ち、血が……」

「くそっ、お前何をしたんだよっ!!」

めぐねえが顔を青くしながら立ち尽くして、ツイントールの体操着のやつが私の胸ぐらを掴んできた。

ふざけんなッ!!!

「私はただ隠れてて、出てきたらコイツが血まみれで、逃げようとしたら足に何かぶつけてきたんだよ!! ていうかお前からこそなんだよっ! 女ばっかで男一人!? ゆきに変なことしてたらただじゃ——」

「こいつは、一人でアイツラを倒してたんだよっ!! アタシたちのためにっ!!」

お互いに叫んだからか、私達は息を吐きながら見つめ合う。

先に視線を外したのはどちらかわからない、だが舌打ちしながら腕の中にいるゆきが震えていたのに気づいてもう一度強く抱きしめる。

ちらりと隣を見ると、紅葉と呼ばれた男子生徒は息をしてるらしい。脈を三年の先輩とめぐねえが測ってホツと一息ついていた。

……訳がわからない、本当に。

「……その、ごめん、気が立っててさ」

数分後、ツイントール……いや胡桃はそう言って謝ってきた。

ゆきは私の膝で寝ている、泣きつかれて寝るってコイツ何歳だよ、ホント。

事情は聞いた。

昨日のアレのあと、めぐねえ、ゆき、紅葉、悠里先輩、胡桃先輩は屋上に退避してたらしい。そして今朝早くから、安全確保として紅葉が3階を『掃除』している最中、私と出会い、そしてこうなったらいい。

「いや、いいよ、私もパニックってたし、悪いのは全部アイツだ」

悠里先輩に紐で縛られている紅葉を指差すと、胡桃先輩は苦笑する。

先輩は「念の為、噛まれてないとは思うけど起きるまでこうしましょう」って言ってたけど、なんか目が怪しかったんだよなあ、息も荒いし、どうしたんだろ？

「まあ、目の前に血まみれのナイフ持ちがいたらすっげー怖いよな」

「殺人鬼って見飽きたと思ったけど、映画の中だけだよ、リアルじゃすげー怖い」

ちよつと漏れたのは内緒だ。

……にしてもたった一人で、アレだけの数のゾン……いや「かれら」を殺すのは、ちよつと異常だと思う。

そう胡桃先輩に言うのと、ものすごい神妙な顔をして頭を抱えたあとポツリと言った。

「忍者、だって言ったら信じるか？」

「冗談にしては面白くないよ」

「普通なら冗談だって笑い飛ばせた。けどこの状況でアレだけできるやつが普通とでも？ それこそありえないだろ？」

……忍者、あの漫画やゲームとかで引っ張りだこの？

現実味がない、ないけど今の状況のほうが現実味がないと言ってしまふと認めてしまうような気がしてぐつと堪える。

縛り終えたのか悠里先輩とめぐねえがこちらに歩いてきて、座る。

「とりあえず全部返り血だったわ……どれだけ殺したのよ、彼」

「わかんない、でも廊下はスプラッター映画だよ」



私の言葉にめぐねえが声にならない悲鳴を上げる。  
思い出したら気持ち悪くなってきた……。

雰囲気が悪くなるが、めぐねえが頭を振って、パンと手を叩く。  
「と、とりあえず下に降りましょう。このままここで生活は出来ないわ」

「……だな、紅葉のかばん見たけど色々入ってた、コレでバリケード作って当面の安全は確保しようぜ」

「当面っていつまで？」

その言葉を言った途端、私はしまったと思うがもう遅い。

全員が項垂れる。

いつまで続くんだろうか？ 街からは音が聞こえない、聞こえるのはかれらの唸り声と引きずる音。

警察は？ 自衛隊は？ スマホには電波も入らない、何もわからない……安全を確保してもその後はどうなる？ 助けを待つ？ 助けは来るの？ 親は無事なのか、心配じゃないのか？

そんなマイナスな考えがどんどん頭を回っていく。

どうせ助けが来ないなら、いつそこから――。

「たかえちゃん……」

「ゆき……？」

眠っていたゆきが、偶然なのか私の手を握る。

……馬鹿なこと考えちゃった、そうだよ、私がここで死んだりしたらゆきはどうなる？ 友達が死んだらゆきはきつと壊れてしまう。

ギョツと手を握り返して、私が前を向くとめぐねえが優しい顔で微笑んでいた。

めぐねえ、そういう顔も出来たんだな。

「めんなさい、変なこと言った」

「いや、いいよ。考えないようにしてたけどさ、なんか大丈夫って気になってた……とりあえずみんなでバリケードづくりでいいかな？

夜までにはあいつも起きるだろうし、改めてそこで今後の方針を決めよう」

胡桃先輩の提案に私達は頷いた。

\*\*\*

「……これは、すごいな」

言葉を失うというのはこういうことを言うのだろう。

赤、赤一色だった。

赤黒く変色し始めてるそれは、かつて私の……いや、私の生徒たちだったものから流れ出たものに違いないと頭が理解した瞬間、体はそれに反応する。

吐き気がこみ上げる、けど吐いちゃ駄目、これをしたのは私の生徒でもあるのだ。

「めぐねえ、大丈夫か？ 無理なら——」

「いいえ、先生も行きます。これ以上本田くんばかりに負担はかけられないわ」

本田くんが気絶するまで、どこか私は彼がロボットのようについていたからだ。

学校でも無口無表情を貫き、私ですら声を聞いた経験は少ない謎の多い生徒。唯一幼馴染である悠里さんと仲がいいことがわかるくらいだ。

噂では、彼女の妹さんとも仲がいいと聞いたが真偽はわからない。ただ昨日、悠里さんが……殺してしまった彼にしたことを思い出して、考えを改めた。

血まみれの彼の体を洗って、ワイシャツで綺麗にするとブルーシートで包んで合掌したのだ。

私はただ怯えていただけなのに、彼は何も言わずに行動で場を収めた。

そして私は、教師なのに彼のことを理解せず上辺だけ見て判断してしまっていた自分を恥じた。

彼だって、ロボットではなく血の通った人間なのに。

「……死体は、どうしたのかしら」

「……窓から捨ててたよ」

柚村さんがそう言ったので、窓の外をちらりと見ると……たまらずに胃の中のものを吐き出した。

おそらくは数十体ほどの「かれら」が地面に横たわっていた。

「めぐねえ、やっぱ戻ったほうが……」

「うっ、うえっ……うっぐ、だ、大丈夫、先生だって、何かしなきゃ」

口元を拭って奮起する。

そう、私だけだ、私しかないのだ。

彼らを守ってあげられる大人は私しかない。

それに一番つらいのは、コレを全部やった本田くんなのだから。

「もしも何かがいたら、迷わず逃げて、立ち向かおうとしちゃ駄目」

「うん、わかってる。武器もないしなー」

何も持っていない両手を見せびらかして笑う胡桃さんを見て、私は苦笑する。

結局の所、私こと佐倉慈は何も出来なかった。

というか、胡桃さんがほぼ全部やってくれた。机を四個積み上げて持ち上げたときは柚村さんと一緒に呆然としたものだ。

四苦八苦しながらバリケードを3つある階段に設置すると……もう夜だった。

## 休憩終わりくラジオ姉貴との出会いまで

オリチャー発動してもうこれチャート投げ捨てたほうがいいんじゃない？ と思うRTA、はっじまるよー。

休憩してたら夜になってますねえ!! ダイナモ感覚!! (やけくそ) ぶっちゃけくりつけられた紐から抜け出すことは可能ですが、最悪腰紐ルートに入るのでもそれは回避しましょう (三敗)

さてはて夜になり、拠点は屋上から我らが原作厨大歓喜の生徒会室、つまりは後の学園生活部の拠点となる場所にお引越しです……まあ、RTAだから結成イベ見る前に逃げるんだけどな!!

さてはて夜になったら、まずやることは腹ごしらえです。

まあ、簡単な料理しか出来ないので職員休憩室にあったカップラーメンと屋上の野菜をぶち込んだラーメンです。

ここで注意するのは肉が入ったラーメンを出すのは止めましょう、めぐねえが泣きます。

この辺にい、うまいラーメン(インスタント)あるらしいつすよ、食べませんか? (押し付け) 食べましょうよ (提案) 食べる (豹変)

「わ、わかったよー! だからおしつけ、あつつう!?!」

特にくるみちゃんには倍プッシュだ! の勢いで食わせましょう。

通常プレイでは覚醒素材先輩を殺しているので、数日間飲まず食わずで倒れたなんて経験をしたプレイヤーもいるんじゃないですか? (自己体験)

まあ、今回はリーさんが覚醒しているのでそこまで追い詰めないと思います、通常プレイの癖がね (RTA走者にあるまじきルーティーン)

さてはて全員が無言でラーメンを啜ってる間に、これからの予定を話しましょう。

まあ、視聴者兄貴姉貴はわかっているでしょう。

そうです、るーちゃんとラジオ姉貴の救出イベントです。ラジオ姉貴ですが……なんとこの時点でも救出可能というのが判明したため、急遽チャートにぶち込みました。

ちなみになるーちゃんは三日目の朝までに救出しないと自動的に死亡です。

あんな幼女すら容赦なく殺すとかブツダテメツコラーツ!! 寝てんのかー!! と言いたくなりますが、サツバツな世界だからね、しょうがないね。というか原作だと交通事故で死んでるとかいいう救いもねえ展開なので、時間制限くっつきつくても救済ルートを作ってくれたスタッフに感謝しましょう。G O i s G O D.

ただ問題は……ラジオ姉貴救出もするから半日以上かかるんですよ、行き帰りに。

帰るときはラジオ姉貴の車を使えばへーキへーキ。

「ツ!!! 駄目に決まってるでしょう!!」

「悠里先輩の言うとおりでだよ、いくらあんたが強いからって無茶苦茶すぎる」

りーさんとチョーカー姉貴が止めますが、だから僕が往く(威風堂々)

というかこのイベントで、同行キャラはフヨウラツ! ほぼ走って夜間移動するので道に迷ったら即座にアウトです。

「……なあ、なんでお前はそんなに自分を追い詰めるんだよ。それに今すぐ行かなくなたって」

(RTAで)早く(終わらせるために)助けるのは当たり前だよなあ?

それになるーちゃんもくっそ可愛いので、加入すればゆきちちゃんと今日は私と私でダブル精神癒やし要因だ、ができるので余裕ある人はやってどうぞ。

というかくるみちゃんがしおらしすぎて調子狂いますね、いつもならシャベル振り回してゾンビ無双するのに、今回は運搬役とか原作壊れる(既に遅い)

「……ねえ、今回も私はお留守番なの? 紅葉」

当たり前だよなあ? というか、ついてこられても邪魔なんどここにいて(切実)

バリケードは作りましたが、見張り役がいないとめぐねえあたりが

ガブガブされたりするからね（一敗）

俯くりーさんの頭を撫でておきましょう、そして必ず帰ることと  
るーちゃんを連れて帰ることを約束しましょう（絶対）

下手すると追いかけてきて、がぶり↓リセットなんてことがまれに  
起きますので幼馴染キャラはくるみちゃん以外はちやんとはいく  
めてどうぞ。

くるみちゃんは勝手にランボーしてるんで……。

「約束、約束よ……」

ゆびきりげんまん、嘘ついたらメガトンコインするゆびきった！

よゆゆ?それじゃいくぞー!! と窓を開けてダイブしましょう。よし  
忍者、山鳥になつてこい。

「「「「??」」」」

全員の声にならない叫び声をバツクに、自由落下……はしません。

まぶ壁ギリギリで落下します、すると下の窓枠に引っかかるのでう  
まく着地しましょう、出来なかつたらリセットです（数敗）

校内を駆け抜けてもいいんですがこつちのほうが早いし、お手軽だ  
し忍者っぽいので僕はこれを使ってます。

あとは件の小学校まで駆け抜けるだけなので……学校の外につい  
て、お話します。

学校の外は物資が豊富に落ちていますが、バイオハザット直後はか  
れらと生存者が多くいるので、危険地帯です。

なので遠征するなら最初の雨がある一週間後、安定を取るなら一ヶ  
月は学校に籠もりましょう。最悪武装したヒヤッハー集団に蹂躪（文  
字通り）されるので気をつけましょう、大体大学編で出る武闘派を思  
い出してください、あんなのがダース単位できます。

ただ物資、特に武器系のドロップは外のほうが優秀です。

戦闘大好きという方は、武器を現地調達しながら外で戦うと楽しい  
ですよ（おすすめ）

さて、夜の学校の外ですが当然のごとく真っ暗闇です。

ですので不意の遭遇からの噛みつかれコンボが一番の事故要因で  
しょう。生存者？ ホバク・ジツ使えばええやん。それか「投擲」で

手足のどこかに当てて首を搔つ捌けば即終了です。

マップは頭に叩き込みましょう、最適な距離を覚えておけばおそろくは深夜には小学校について、朝までにはラジオ姉貴に合流できます。

道中では適当な店によって「ラジオ」を入手しておきましょう。

そしてカチカチツと1242KHzに合わせましょう。

『……誰か、誰か聞いてない？　こちらは個人避難シエルターの……お願い聞いてたら助けて。物資を貯蔵してるからしばらく持つけど、一人はその……心細いの、誰か聞いてる？　ねえ……だ——』

よし！（フラグ構築完了）

ラジオを切って、バッグの中にしまいましょう。

ラジオの順番はまだもう一回だけあります。

ちなみにこの頃はまだワンワン放送局と名乗ってなかったらしく、原作での前向きな放送内容ではないため、他のキャラに聞かせるとSAN値が削れます。

ただ段々と前向きになっていくので、通常プレイでは日々前向きになるラジオ姉貴の内容に生活部メンバーが勇気付けられるという嬉しい特典があるので、ぜひ聞いてみてくださいよなあ、頼むよー。

そうこう話してるうちに小学校につくう！

コンシューマ版だと学校のかれらは大人だけです、PC版だと子供たちの死体もガッツリあるので卒業旅行編で寄って、SAN値直葬されるというデストラップが待っている、通常プレイでも一人で行ったほうがダメージは少ないです。

るーちゃんは小学校2Fのどこかにいますので、聞き耳をしながら探しましょう。

あつ、注意するのはかれらと戦闘しないことです。

ゆきちゃん以上にSAN値が低い彼女が頭パーンな死体なんか見たら速攻で発狂です。

姉妹揃って豆腐メンタルかよお!!

なので姿勢を低くして隠密行動です。

夜間はこちらでも視認しにくいですが、それは向こうも同じことで

す。

聞き耳しながら相手の位置を探って、回避もしくは暗殺して適当な空き教室に放り込みましょう。ただあんまやりすぎても血に塗れるのでやるのは最悪三体までとしてください。

みいーつけたあ（某ニンジャボイス）

寝てるらしく、寝息が聞こえますねえ……空き教室の教壇の内側に丸まってカワイイヤッター!!

そーつと教室に入って、肩を叩きます。

寝ぼけ眼をこすりながらこちらを見ると、体を震わせて胸に飛び込んできます。

「もみにーツ……!!」

ああ、ああ（浄化される音）

通常時ならお兄ちゃんですが、りーさんと幼馴染だとなるーちゃんとも幼馴染ですので呼び方が男なら「○○にー」、女なら「○○ねー」と呼んでくれます。

ちなみに通常時でも好感度と愛情値を上げることによって上記の呼び名になるのでペド兄貴姉貴は頑張ってください。

さて幼女の柔らかかボディを堪能するのもいいですが、夜も深けて（只今午前一時）なので移動します。

当然るーちゃんは背負いますが、ここで余ってるポイントで「運搬」レベルを取得して、残りは全部持久力にぶちこんでやるぜ!!

「運搬」は文字通り、何かを運搬するときにスタミナ消費が抑えられますので取っておいて損はないです。

さてるーちゃんですが、目をつぶっておいてねと言うのを忘れずに。

死体や凄惨な現場を見るとすぐに発狂するからね、時間も時間なので目をつぶるとこちらに体を預けて爆睡するので意外と夜救出が楽なんですよね。

こつからまたステルスと移動ですが、退屈しているであろう皆様のためにい……シヨツピングモール編をお話します。

みーくん、圭ちゃん幼馴染ルート限定のルートですが学校よりも広



く、おまけに物資も豊富なためクリアするだけなら学校よりも楽、ではありません。

かれらの数は多いわ、食料品がある地下は停電してるため噛まれる危険性あるわ、原作での生存者組がいつの間にか噛まれて圭ちゃん離脱イベントが起きるわで大変です。

ただみーくんを残して圭ちゃんと二人で旅立つ「二人きりの旅」ENDや圭ちゃんに取り残されたみーくんが女性主人公の場合、主人公を圭ちゃんだと誤認したままクリアすると「幻想の親友」ENDや太郎丸と主人公が生き残ると出る「ローンワンダラー」ENDなどなど盛りだくさんです。

んー、まだ着きませんねえ。

じゃあ気が早いですが、ラジオ姉貴についてOHANASHIします。

原作では六巻に出てきたキャラですが、おそらくは空気感染からのかれら化してしまい、我がゴリラ、くるみ・くるみちゃんに天へと歸らされた姉貴です。

ステータス的には平凡で、特にコレと言ったスキルはありませんが、大容量のキャンピングカーと貯めに貯めた食料品が手に入るため、正直キャンピングカーのオマケみたいな扱いですが、この姉貴正気度がアホみたいに高く、どんな状況でも発狂することがほぼないと言っているほどのカチカチメンタルをしています。

そのため、現状では戦えるのが覚醒リーさんしかいない我が陣営に必要な戦闘要員といえます。

あと大人二人組にすることで、めぐねえのメンタルが劇的に快調に向かいます。

お酒もあればさらに良しといえますが、現状でもりーさんの愛情度がなんかやばい方向に行ってるため、大事を取ってお酒回収はなしだ！

……と話していたらラジオ姉貴の家に着きましたね。

はえー、おつきい（感想）。

とりあえずるーちゃんを起こして、しっかりと肩につかまっている

ようにいいいます。

ここで起こさずにメガトンのーちゃん、やって主人公キャラが発狂死したやついるらしいっすよ? (一敗)

「んっ、もみにー……ちよっとおう」

そら (かれらぶつ殺して、シャワーも浴びてないから) そうよ。

実際、このままではいけないのでラジオ姉貴のシエルター内にあるシャワーと寝床で休憩しましょう。

徹夜したせいで、主人公兄貴は限界すれすれです。……あとるーちゃん近い、近くない?

ママエアロ、さて屋上に続く梯子を登ったら、目の前のハッチを開きます。

さらに内部に続く梯子を降りるとラジオ姉貴の住宅におじやまします (PINKボイス)

まあ、ここでもハッチ付きの扉がありますが不用心にも開いているのでそのまま扉をスライドします……さて。

「うわあああつ!!」

QTEで襲いかかってきたラジオ姉貴の攻撃を避けます。

なんでかって? そらおめー何も言わずに入ってくるやつを歓迎するほどの余裕は今のラジオ姉貴にはありません。大人の女性で美人さんだからね、男を視認したらそらぶっKILLするわな。

一撃避けたら、るーちゃんが泣き出すのでそれを聞いたラジオ姉貴がハツとした顔でこちらを見ると、鉄パイプを落として膝から崩れ落ちます。

泣く子にはホモもノンケもレズも勝てない、はつきりわかんかね。

「な、なんで、子供が……キミは……?」

寡黙だからいい選択肢出るかわかりませんが……おつ、「助けに来た」とかいいいセリフ来ましたねえ!!

好感度爆上げですよ、ラジオ姉貴の個別ENDはまだ確認されていないのでガシガシいい選択肢上げましょう。修羅場化しないキャラいいゾ〜これ!

「助けに来たって……キミはその……ラジオを聞いて?」

そうだよ（同意）

だから温かいシャワーとレトルトごはんください！ もうスタミナゲージがイクスギイ！！ イクイクイク！！と点滅してるのではよ、はよ（滝汗）

ラジオ姉貴は基本、来る者拒まずの種壺姉貴なのでよっほど非道なことをしなければ受け入れられます。

涙目のるーちゃんをホラ見ろお！ ここまで一人で生き抜いたんだゾ！ というか救済イベが難易度高すぎて壊れるわ！

「……わかった、けど変なことしないでね。女だと思って舐めたら駄目だよ」

済まないがノンケはNG。

とりあえずシャワー、シャワー！ 温まってるかあ？

「もみにー、るーもシャワーあびる、いっしょに」

……俺、ホモちゃうかもな（ロリコン並感）

とりあえず一緒にシャワーイベントで暗転するので本日はここで切りとうございます。

\*\*\*

るーはおつちよこちよいだって、りーねーともみにーによくいわれる。

おきにいりのぼうしがとんでいってめいわくをかけた。

ありさんをかんさつしてたらひがくれた。

……なきそうになりながら、いっつもりーねーやもみにーがさがしだしてくれた。

だからこんかいもっておもった。

どれくらいじかんがたつたのかわからない。

せんせいたちも、きょうしつにいたこたちもみんないなくなっちゃった。

なきたかったけどないてるこからたべ……いなくなっただけか  
らるーはなかなかった。

けどもうおなかもすいたし、のどもかわいた……りーねーにあいたい、もみにーにもあいたいよお。

そうおもってたらもみにーがきてくれた。

「……待たせた、るー」

「もみにーッ……!!」

どのくらいはなれてたのかわからない。

けどひさしぶりにかいたもみにーのにおいはいつもよりつよくて

……あんしんする。

もみにーのにおいをかぐといつも、おなかのしたあたりがきゅうーってしめつけられる。

りーねーにそうだんしたら、わらって「そう、もうちょっとしたら一緒に、ね」っていったけどなんだろう？

「……すまない、怖かったな。悠里も無事だ」

「うん、うんっ」

むねにかおをうずめて、いっぱいいきをすう。

あたまがふわふわしてきて、あつたかいきもちがあふれてくる。

もみにーがおぶってくれて、くびすじにはなをちかづけて……からだがふるえる。

めをつぶつてろっていわれたから、めをつぶるともみにーのにおいとからだのかんしよくだけがるーをつつんでくれる。

ぎゅーとおなかのしたがあつくなる……おしっこはしたくないのに、へんなのもじもじする。

ずつとめをつぶっていると、いつのまにかねちやったみたいでもみにーにおこされる。

あたりはまっくらで、めのまえにはおおきなおうち？ みたいなのがあった。

「……ラジオで聞いた、ここで助けを待つものがある、と」

もみにーはやさしい、しゃべらないだけでるーのことをいちばんにかんがえてくれる。

りーねーよりも……。

「掴まっつていろ」

いわれなくてもつかまつてる。

でもぎゅーつとみっちやくしていつぱいいきをすうのはいいよね？

もみにーがはしごをのぼって、へんなどびらをあけて、またはしごをくだって、そしておおきなどびらをひらいたとき、こわいかおをしたやつがもみにーにむかってなにかをふりおろした。

もみにーになにかがすすって、ひょうじょうをゆがめる。

———なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？

なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？

なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？

なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？

なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？

あたまにいつぱいなんがおおいつくされて、るーは———いつもどおりおおごえでないた。

こうするとみんなこまったかおをしてやめてくれる。

もみにーとりーねーがるーをなかまはずれにするときも、こうするともみにーがやさしいかおをしてるーにかまってくれる。

りーねーだけにもみにーはわたさない。

「な、なんで、子供が……キミは……？」

「助けに来た」

なぐってきたやつともみにーがはなしてるとき、ないてるふりをしてそれをみる。

かみはみじかくて、おむねはりーねーよりもない、へんなかつこうしてるそれは、もみにーにいろいろきいていた。

もみにーはうなづくだけだったけど、それはためいきをつくところだった。

「……正直、キミを信用するのはまだ早いと思うけど、この子に免じてシャワーとご飯、あと休息することを認めるよ」

……やっぱりりーねーのいうとおりだ。

もみにーはりーねーとるーが……ううん、るーがいつしよじやなきやぶらぶらいつてしまう。

「シャワー浴びてきなよ、その……臭うよ?」

「もみにー、るーもシャワーあびる、いっしょに」

そういうとそれはしかめつたらをする、リーねーもこのごろさういうかおでみるけどうらやましいのかな?

だつてりーねーははずかしくて、もみにーといっしょにはいれないもんね。

あそこならもみにーとふたりつきりになれる。

「……仕方ない、いくぞ」

そういつていつもみたいにおひめさまだっこしてくれるもみにーがだいすき。

……ああそうだ、みんないなくなってもどらないなら、もみにーとふたりつきりになつてもいいよね。

おかーさんもいつてた、るーはいもうとだからりーねーはがまんしなきゃいけないって……だからいいよね? リーねー?

\*\*\*

私が生き残つたのは偶然と必然が重なったからだ。

売れないバンドをしていた私は、偶然実家に帰っていた。

そして父さんからもしも何かあったら、別宅として確保しているシエルターに逃げろとも聞いていた。

何かなんてない、明日も明後日もバンドをやつて、そうやつて生きていく。

父さんはランダルコーポレーションに勤めていて、小さい頃はそつちに行くとも周囲から思われていた。

ふざけるなど反発して出ていったのが高校卒業後。

そうして大学中退してバンドを結成したが売れずに、燻つていった頃、父さんから電話があった。

気は済んだか? と。

怒る気力も湧かなかつたわけではないが、勝手に飛び出した娘に電話してきてそれで許した父さんの寛容さに気づけないほど子供では

無くなった。

……あとで考えると、あのままそこで燻っていたら私は、歩く死体の仲間入りをしていただろう。

自宅に着いて、父さんの姿がなく電話したら……怒号となにかの咀嚼音が聞こえた。

『シエル、ターにいけえ!! 万が一のときに作った、大丈夫だ!! 安心しろ、父さんもすぐ——』

激しい音と共に電話が繋がらなくなった。

尋常じゃない様子だと思った私は着の身着のまま、走り出した。

周囲から聞こえてくる音はヘッドホンで聞こえないふりをした……だってそうじゃない、人が人を食べてるなんてそんなの現実じゃない。

別宅は昔のままだった。

勝手に入り浸って貼ったポスター、集めていたCDの数々、そして私用の服など……ホコリを被ってないソレを見て、私は泣いた。

父さんがどうしてこんなシエルターを作ったのなんて知りたくもない。

もしも外の様子を予想していたとしたら……いや、そんなはずはない。あの人畜無害を地で行く性格の父さんがそんなことをするはずがない。

ないんだから……。

一日泣いて、起きて、それでも元に戻ってないことに絶望しながら備え付けてあった放送設備を使う。

こんなことなら緊急用の電波を知っておくべきだったと後悔する。助けて、ここにいる、食料もあると言ったが返答はなかった。

その日はずっと起きてようと思ひ、椅子に座りながら無線機を弄る……雑音だけで何も無い。

無駄だったと時計を見て思う、もう朝になるかならないかそんな時間。

「ため息をついて、凝り固まった体を伸ばすと……音がした。  
「ッ?!?!?!」

救助隊？　と思ったが違う。

音からして一人だ。まさか助けに来てくれた？　と思った。

嬉しさのあまり、椅子から立ち上がって、そこで気づく。

もしもそこにいるのが悪意ある人物なら？　私は女一人だ、それに物資もここには沢山ある。

一人だけなら数年は暮らしていける量……そんな場所を見つけたらどうなる？

奪われるならまだいい、もしもそれが男で悪意があつたら？　そんな考えが思い浮かんでいたら、鉄パイプが見えた。

念の為、そう念の為だ……振りかぶるわけじゃない、自衛のために持っただけだ。

鉄パイプを持ち、扉横で待機する。

殴るわけじゃない、そうだ警戒して何が悪い、そうだ私は悪くない。

開く扉、スローモーションのように開いたソレから出てきたのは男……そう判断した私は無我夢中で鉄パイプを振り下ろした。

だが、男はそれを避けて距離を取る。

私は外したと舌打ちをして、再度構えようとして……眼の前にいた子たちを見て、鉄パイプを落とす。

高校生くらいの男の子と小学生の女の子だった。

女の子がびつくりしたのか大声で泣いてしまった。

私は何をしようとした？　怖がって危うく、年下の子たちを殺しかけた？

「な、なんで、子供が……キミは……？」

「助けに来た」

静かだけど、芯を持つ一言に泣きそうになる。

だけど油断はしない、まだ完全に味方だと決まったわけじゃない。

「助けに来たって……キミはその……ラジオを聞いて？」

コクリと頷いた男の子は、かばんからラジオを取り出す。

……というかあのかばん、巡々丘高校のものだけどこここからかなり距離あるよね？

まるで物語の主人公みたいだよ、と思うと……その、少し臭う……



いやごめん、訂正かなり臭う。

「……わかった、けど変なことしないでね。女だと思つて舐めたら駄目だよ」

一応釘を刺すが、もしも本気で来られたら私は太刀打ちできないつてことはわかる。

振り下ろした鉄パイプを避けて、戦う様子を見せられたら正直勝てる気がしない……それにちらりとかばんの中身見えたけど、ナイフとかいっぱい入っていたよ。

男の子に臭うよと言うと、顔をしかめつ面にする……うーん、無表情キヤラかと思つたけど意外と表情豊かかな？

シャワーを浴びてきなとも伝えると、一緒に入ると言う連れてきた女の子を、慣れた手付きでお姫様抱っこするとシャワー室へと行った。

んー、あの二人知り合いかな？ 兄妹つて感じじゃない……というか女の子のほうの視線が少し気になった。

……泣いてたと思つた、けどなんだか大げさすぎだと思つてしまう私は疑り深いのだろうか。

「考えすぎ、だよ、ね？」

そうだ、一人ぼっちでいたから精神が疲れてしまったんだよ。

……そうだ、カレーを作ろう。美味しいものを食べれば、きつと嫌な考えも吹き飛ばさずさ。

ドライブくめぐねえが犬になるまで

やっとほんへ終わったほんへが大団円で嬉しいRTA、はっじまるよー。

るーちゃんのお風呂イベントはカットです（無慈悲）

そんなの（入れたら）パパ（CERO）に怒られちゃうだろ!! あとノンケシーンはNG（ホモの鑑）

さてはてお風呂、というかシャワーですがこれはSAN値を保つのにひじよーに重要です。

だから早めにシャワーが解禁される3階を開放するべきなんですよ（力説）

あつ、ちなみに今までの戦闘やらイベントで、プレイヤーキャラのSAN値は限界まで削れています。

SAN値を削りすぎるとゆきちちゃん状態、やったねるーちゃん状態、自殺、発狂etc……など永続的なバッドステータスが付きます。なのでなるべくイイものがつくことを祈りましょう。

今回は「精神的依存」がついてますねえ!! これは表面上は大丈夫ですが、仲間が危機に陥ったり、死んだりするとすっげー取り乱すバッドステータスです。

お前犬かよお!! ワンって言うんだよ、3回だよ3回。

寡黙で精神的依存……こいつ、メンヘラじゃな?!

まあ、冗談はさておき、悪くはないです。これで「サイコパス」なんて引いた日にや、変なところでキャラが勝手に発狂したりするので通常プレイではSAN値に気をつけようね!

さて、シャワーと休憩、ご飯を食べたらお昼前くらいにはなってます。

ここでのご飯はランダムですが、主にカレーが出ることが多いですねえ! カレーいいです、体力とスタミナにバフ、さらにSAN値回復もできるので積極的に使っていきましょう。

「それで、キミはその巡ヶ丘高校で生き残って、幼馴染であるこの子を助けるため単身突撃、それで途中でラジオ聞いて私のことを知ってこ

ここに……主人公かつ!!」

そうだよ（メタ発言）

もぐもぐカレーを食いながら頷きます。

今はラジオ姉貴の説得中です。「寡黙」で選択肢が限られますが、人肌恋しい（意味深）ラジオ姉貴は下手な選択肢を選択しなければホイホイ付いてくる優しい人です。

というか付いてきてもらわないと、チャート壊れるから114514!! というか来てクレメンス。

「……メリットは？ 私がここから離れるメリットを教えてください」

一人ぼつちは……寂しいもんな（ANKボイス）

実際、このまま放置するとラジオ姉貴が死ぬので学校で水を飲ませないといけません。水が特効薬とかコマ？ と思うでしょうが事実なのでしょうがないね。

もう少し時間を置いたラジオ姉貴だと断られるのですが、一週間で内のラジオ姉貴なら勧誘できる、というかしろ（豹変）

「確かに一人は寂しいけど、キミの話が本当だって保証は……」

「……もみにーはうそつかない」

るーちゃんやめろオ!!（建前） ナイスウ！（本音）

「わかった、わかったよ。行くよ……とりあえずご飯食べて、あとキミ、紅葉クンは荷物を詰め込むのを手伝って頂戴。詰め込むだけ詰め込んで行くよ」

やったぜ！（ガッツポーズ淫夢くん）

ラジオ姉貴（キャンピングカー）ゲットだぜ!!

ご飯を食べ終えたら早速準備をしましょう。持っていくのは食料品だけでOKです。水は学校の水を飲めば予防も出来てOKです。

持っていくのはキャンパンとかの保存食を優先してください、あとは野菜系。肉ももう少しあとじゃないと喜ばれません、プレイヤーキャラは気にせず食べてくれますがね、根性ねえな（無茶振り）

キャンピングカーに詰め込めるだけ詰め込んだら、運転はラジオ姉貴に頼んでるーちゃんとドライブを楽しみましょう。運が悪いと生存者との戦闘もありますがあつたので……話すネタなんかあつた

かなあ、先駆者兄貴たちがガン掘りしてるので解説することがんにや  
び……。

「……キミは……なんでそうまでして誰かを助けようとするの?」

おや、ラジオ姉貴が話しかけてきましたね。ラジオ姉貴の好感度は  
欲しいのでいっぱい話しますか、好感度・愛情度はマスクデータにさ  
れちゃったので先駆者兄貴みたいに確認できないのがいやーキツ  
イっす。

それにラジオ姉貴には愛情度設定されてないでしょうし、所詮二話  
限りのモブじゃけえ!

さてラジオ姉貴への返答ですが……ふむ、「理由が必要か?」とかに  
しておきましょうか。善人RPいいゾ〜これ。

「……気が狂ってるのか、それとも底抜けに優しいのか、あるいはどっ  
ちも、かな? 正直、キミは狂人だ。それだけははつきり言っておく  
よ」

原作のあなたも実際狂人だと思うんですけど（特大ブーメラン）

ああ、そうだドラアイブタイプスピード（運転）について話してお  
きましょうか。

基本的にめぐねえ、ラジオ姉貴が生存していれば彼女たちに運転は  
任せますウ。

ただこの二人が死亡、もしくは未加入の場合は主人公、もしくは学  
園生活部メンバーが運転することになります。

「運転」スキルを取っているとイニシャルがDなアレやワイルドな  
速さのアレ真っ青なカーチェイスができます。

まあ、かれらを轢き殺せますが当然耐久力がガリンゴリンと削られ  
て、すぐに廃車になるのでできる限り避けましょう（一敗）

ただ運転は作り込みが甘いのか、ハンドル操作がひでたるとじゅん  
ぺい並にやべーです。

ちよつと動かすだけで、車体がすごーい動くよ! PC版だとMO  
Dがあるのである程度制御できるらしいですが、MODの入れ方わか  
らないです（無能先輩）

「見えたよ、学校だ!」

わーい、学校ら（TM並感）

さて、と学校が見えてきたらちよーつと掃除しなきゃいけません。先駆者兄貴たちの解説を見た皆さんならご存知でしょうが、昼間の学校はかれらがうじやうじやいます。見ろ、人がゴミのようだ！と言いたくなるくらい。

真正面から突っ込んだら、ステーキ（直球）は不可避ですのでラジオ姉貴たちにはここで待機してもらいましょう。

本当は下校時間過ぎたほうが楽なんですけど、これ以上先延ばしにするとりーさんあたりが我慢できなくなつて学校の外に出ることあるんですよねえ……（五敗）

「……やつぱりキミは狂人だよ」

ラジオ姉貴に苦笑されますが、RTAなんだからリスク背負つてタイムを大事にするのは当たり前だよなあ？

「もみにー、いかないで……っ」

るーちゃんがズボンを引っ張つて止めてきますが、すまん、本当にすまん（天狗）

というか主人公兄貴の服のことを完全に忘れてました……ママエアロ。

ここでのーちゃんを抱きしめて、耳元で「安心しろ、必ず悠里の元に連れて行く」と約束しましょう。

そうすることでのーちゃんが快くいかせて――。

「やっ」

……いかせて――

「やーっ!!!」

行かせろオ!!!!

「りーねーとあつたらもみにーがるーとずっといっしょにいてくれな  
いもん!!」

「ヒュー、色男だね」

ラジオ姉貴どうにかしろオ!!

どうすつぺ、どうすつぺ……ガチ想定外な事態置きすぎじゃないですかね（困惑）

愛情度が高いんですかねえ？ 実ほるーちゃん救出の通しプレイ  
これが初なんですよねえ（RTAの屑）

……しゃーない、やりたくなかったけど強硬策に出ます（オリ  
チャー）

まずズボンを掴んで離さないほるーちゃんを背中に乗せます。

続いてラジオ姉貴に頼んで紐をほるーちゃんに巻いて、主人公にも同  
じように巻きます。しっかりと巻いてください、おおう！ もっと締  
め付けてくれオルルアン！（ドラゴン田中）

さらなるほるーちゃんに目隠しをしましょう。犯罪臭たつぷりです  
ね！ どっからどう見ても人攫いです本当にありがとうございます。

「……犯罪者、かな？」

こちらをジト目で見るラジオ姉貴を無視して、ここで待機するよう  
に言います。

ほるーちゃん？ 説得なしになんか背中に顔埋めてめっちゃ深呼吸  
してるので大丈夫でしょう、大丈夫かな？（不安）

さて、ここからは持ち物はナイフ一本だけでいいです、残りの荷物  
は置いていきましょう。

準備ができたらオリチャーについてお話します。

元々のチャートは駐車場のかれらをぶっ殺して（直球）車を止めて、  
主人公が3階まで上がって、セーフゾーンからカーテンで作った紐を  
下におろして、ほるーちゃんとラジオ姉貴を引っ張り上げるとい  
うチャートでした。

これからやるのは忍者プレイしてたときに見つけた裏技を流用し  
たものになります。

壁蹴りで2階まで登ります（真顔）

どういうこっちゃと思う人いるでしょうが、実際見てもらったほう  
が早いと思うので見てもらいましょう。

まずは学校に入ります。

校門から玄関口までは比較的にかれらが少ないので、普通に走って  
突破します。

ここで注意するのは、絶対ほるーちゃんをかれらに掴まれないよう

に立ち回ることです。掴まれたら最期、QTEなしにガブリです。容赦ねえな（素の感想）

さて玄関口まで着いたら、適当なかれらを一体誘導します。

丁度いい位置についたら、そいつにめがけて助走をつけて……肩にめがけてジャンプします。そして着地と同時にさらにジャンプして玄関口の屋根へと降り立ちます。

今後、この技をジエツトストリームアタックと呼称します。

忍者プレイしてるときに偶然見つけたんですよね、落下忍殺……もとい落下暗殺連続で決めたらとか遊んでたら出来たんですよね。ただ仕様なのかバグなのか、「忍者」スキル持ちじゃないと出来ないの、通常プレイではやらないようにしよう！

さて成功したら、次は二階の教室に「聞き耳」をします。

今の時間帯、生前の行動をすれば一階の学食に集中していますので二階も安全っちゃ安全です。

ただモンスターハウスになっていることもあるので、勢いで行ったら死にます（一敗）

「聞き耳」では教室内に残ってるのは一人……一人、お昼時、教室に誰もいない……あっ（察し）

一人なら問題ないのでスルーしましょう、決して走者のリアルを思い出して同情したとかではありません。

割れた窓から教室に侵入しましょう。このとき、音を立てないようにしましょう、下手に音を立てるとかれらが寄ってきます。

ボツ——ごほん、お一人様かれらに涙しつつ、廊下に出たら静かに、それでも急いで3階に上がりましょう。

廊下にはかれらが複数人いますが、階段を上がってしまえばこちらのものです。

そのまま階段を静かに上がり、バリケードを超えたら工事……完了です。

廊下は……綺麗になってますねえ!! どうやら今日一日は掃除をしていたようです。

バケツを持ってポカーンとしてるゆきちゃんが出迎えてくれます

た。

「……忍者さん？ ゆ、悠里さん、忍者さんが帰ってきたよー!!」  
バケツを持ちながら走っていくゆきちやんを尻目に、るーちゃんと自分を縛っていた紐をナイフで切ります。

るーちゃんの目隠しを取って準備完了です、ホラ、今日からここがキミの家だよ（なお二週間後くらいには燃える模様）

「もみにー、ここって——」

「るーちゃん……ッ!」

アホみたいにすげースピードで走ってきたりーさんがるーちゃんに抱きつきました。

オパーイがブルンブルンしててああ、たまらねえぜ（ノンケの屑）  
ワンワン泣きながらるーちゃんを抱きしめるりーさんにな、涙がで、でます……あれ？ るーちゃんも「りーねー」って泣きながら

抱きつくはずなんです、ふくれっ面なんです、今回のるーちゃんちよつとチャートと違う、違わない？ ま、まあ誤差だよ！ 誤差!!

まあ、休んでる暇はないぞ忍者！ 出撃だ！ と牛乳飲んで爆撃しそうな悪魔なセリフを言いながら、キャラを動かしましょう。

「少しは休めよ!」

おつ、乙女ゴリラ姉貴じゃん、オツスオツス、あのさあ、まだ救助者いるからさ、手伝ってほしいことあるねんな。

「悠r……りーさんの妹だけじゃないのかよ!」 ああもうわかった！  
わかったから!! 何すればいいんだよ!」

おや、あだ名呼びしてますね、知らんうちに仲良くなってるいいゾ  
これ。

とりあえず無事そうなカーテン全部持つてきてホラ。それをつな  
げてロープにするんだよ、あくしろよ。

「繋ぐ？ カーテンを……ああ、そういうことか！ 任せろ!」  
ゴリラは賢い、はっきり分かんだね。

実際は「助ける者がいる」「カーテンだ、多く」「それを繋ぐ」程度  
しか、主人公兄貴は言ってます。「寡黙」じゃなくて口下手かよお  
前エ!!



とりあえずカーテン集めはくるみちゃんに任せて、職員室に向かいます。

3階が安全になって、掃除も終わってる、そしてめぐねえがいない……多分、アレを見てますね、コレワ。

「こんな、こんな、の……」

先駆者兄貴が必死に燃やそうと頑張った緊急避難マニュアル読書イベントですね。

読んだキャラのSAN値直葬される悪魔のイベントですが、敢えて放置しました。

なんでって？ SAN値直葬されためぐねえって可愛いじやろ？

(趣味)

リカバーが大変ですが趣味とRTAを兼用してもいいじゃない、苦行なんだから(忍者)

さて、冗談はさておき、なんで燃やさずにめぐねえにマニュアルを読ませたかと言うと、刷り込みを行うためです。

めぐねえですが、ぶつちやけ無能な働き者です。覚醒するならまだしも、通常時なら自分が死のうとも生徒だったかれらを攻撃することはありません。

なのに、「大人だから頑張らなきゃ」と張り切りガールになって、勝手に行動して勝手に噛まれることがあります。

なのである程度行動を操れるように、首輪をつけます……あっ、PC版ではワンワンプレイ(意味浅)もできるので、鬼畜兄貴姉貴はやってどうぞ。

全部読み切ったところで、わざと足音を鳴らしてめぐねえに気づいてもらいます、おまたせ。

「ヒツ……ほ、ほん、だく、ん」

ガチガチと歯を鳴らしながらへたり込むめぐねえに嗜虐心がオーバードライブしそうになりますが、我慢です。

選択肢は「何を見た？」にしましょうか。

「た、ただのマニュアルで、っです」

怯える姿がたまらねえぜ(嗜虐心10%)

このときゆっくりと距離を詰めましょう。一気にいくとめぐねえが精神崩壊を起こしてゆきちゃん化します。

「来ないで、来ないでえっ!!」

マニュアルを投げ捨てて、体を震わせながら蹲るめぐねえになったら一気に近づいて……抱きしめましょう。

安心させるようにたっぷり抱きしめてあげてください。ただ長くやりすぎて、リーさんに見つかったらリセットです（真顔）

ほーらよしよしよーし、辛かったねー、怖かったねー、大丈夫だよー。

「本田、くん、本田くん……」

トントンと背中を叩いて上げるのもいいゾ〜これ。

抱きしめて、めぐねえの体が力を抜けたのを確認したら頭を撫でてあげましょう。

「本田くん……本田くん……」

堕ちろ！ 堕ちたな！（洗脳完了）

これでめぐねえは都合のいい女になります（屑発言）

主人公の言葉に従順になりますし、勝手に行動はしなくなります。

よーし、犬だよ犬、ワンって言ってみろよ（嗜虐心50%）

「ワン！」

グッボーイ、グッボーイ（嗜虐心上昇中）。

……いかんいかん危ない危ない。この動画は健全なRTA動画なんです、青少年のナニカが危ない描写はいけません！（手遅れ）

ハイライトオフツ！ なめぐねえの魔力はやべえよ、やべえよ、続きは君たちの目で確かめてみてくれ！（攻略本並感）

「……本田くん、私は駄目な先生ですよ？ でもいいんですよ？

駄目な先生で、甘えて、溺れてもいいんですよ？ ねえ本田くん？」

おっ、やべえ（青少年保護育成条例的に）110番だな？

とりあえず頭を撫でてあげましょう。それとみんながいる前ではいつもどおりにするように言いましたよ。

「そう、よね。こんな状態見られたら困惑しちゃうわ……ああでも見

せつけたいって気持ちあるかも」

お前DMかよお!!? まあ、そう仕向けたんですが（屑）

妖しく笑うめぐねえに、とりあえずマニュアルを金庫入れよう！

と提案しましょう。誰かが見たらSAN値直葬されるからね。

「……そう、ね。誰かが見たら大変なものね」

金庫の中にマニュアルを入れたのを見届けたら、めぐねえを撫でましょう。

こうすることで依存度が更に高くなります。

ちなみに愛情度が上がってるように見えますが、忍者兄貴と同じようにSAN値削りすぎて「精神的依存」になってるだけです。好感度は上がるだろうけど、こんなイベントで上がる好感度とかたかが知れているからヘーキヘーキ

「誰かに撫でられるのっていつ振りかしら……気持ちいい」

さて、そろそろ準備が終わると思いますが、長くなりそうなので今日はここまでです。

\*\*\*

ただの避難指示書、そう私は考えていた。

だから掃除を彼女たちに任せて、私は職員室へ向かった。

「職員室は先生が掃除します、ゆきちちゃん、テストは残しておくからあとでたっぷり勉強しましょうね」

自分の発言に吐き気がする。

私は教師ではなく、汚い大人の考えから職員室に向かった。

そんなわけがない、そう考えつつも誰かと一緒に行かなかったのはそういう考えがあつたからだろう。

「なに、これ……」

書かれていたのは避難指示だった。

そう、避難指示書、今回の事件を想定されたもの。

多くの人命が危機にある時は、少数の人命の損耗を躊躇ってはなら

ない。

その一文を読んだ時、私は胃からせり上がってくるものを我慢できずに吐き出した。

ここはどこだ？ 研究所？ 政府機関？ 大人が集まる場所？  
違う、学び舎だ。

子どもたちが将来を、今を、そして誰かと笑い合うために通う場所なのだ。

なのに人命の損耗？ 大人が書くことかと頭に血がのぼる。  
だがふと冷静になった頭がこう囁く。

『知らなかった、そう知らなかった、私はこんなもの見てもないし聞いてもない。だから私のせいじゃない』

チガウ。

違う、違う、違う、違う、違う、違うッ!!!

「う、うええええっ!!!」

胃の中のものを吐き出しきって、胃液すら絞り出すように吐いた私は荒く息を吐く。

違うわけがない、ここにあったのだ、私を通い、仕事をしていた場所にこれがあった。

赴任して早々に見せてくれた、そのときは止められて見なかった。日常を過ごしていくと徐々にだが忘れていった。そう忘れていたのだ。

誰もが忘れて、そして誰も対応しなかったからこの始末なのだ。

誰かが読んでいれば生徒たちを避難させることだっけ出来たかもしれない。

悠里さんに殺人をさせず、本田くんには『掃除』をしてもらうことなく、安全な場所に避難できたかもしれない。

そう出来なかったのは誰のせい？ 誰のせいなの？

『お前だろ？ 佐倉慈、お前のせいだ』

「ふぐっ、おえっ……うっ、ううううううっ」

無様に、泣くしか出来なかった。

情けなくて、悔しくて、そして不甲斐ない自分を憎悪した。

終わりにするなら簡単にできる、そこにある窓から飛び降りればいい。

けど出来ない、いやすることは許されない。残ってる大人は私だけだ、頼りなくても、何も出来なくても、大人は私しかないのだ。

ここで逃げてしまったら、私は——私はっ。

——パリン。

えっ？

「……」

そこに立っていたのは、半裸姿の本田くんだった。冷たい目で、私を見ている。

その視線は私の持っている——ツツ!!!

「ヒッ……ほ、ほん、だく、ん」

何に怯えたのか、私は後ろに下がろうとしてバランスを崩して尻餅をつく。

立ち上がろうとしても力が入らない。

「何を見た？」

「た、ただのマニュアルで、っです」

苦しい言い訳なのはわかってる。

けれどそう言うしかなかった。

すると彼はゆっくりと私に近づいてくる。

情けないことに私は、取り乱して彼から距離を取るしかなかった。

泣き叫び、隠そうと思ったマニュアルすら放り投げ、拳句の果てに

蹲って泣くしかできなくなった私。

罵声を浴びさせられるかもしれない、殺されるかもしれない、この期に及んで私は自分の保身しか考えていなかった。

けれど彼は私をゆっくりと起こすと抱きしめてくれた。

「ほん、だくん」

何も言わずに抱きしめてくれる、安心させるように。

だ、め、コレは駄目だ。

堕ちる、堕ちてしまう、私が教師ではなく、ただの弱い人間だと堕ちてしまう。

振りほどこうとしても振りほどけない、むしろ彼の包容が強くなつていく。

駄目、だめえ……。

「本田、くん、本田くん……」

まるで赤ん坊をあやすように、彼は私の背中をトントンと叩いてくれる。

ドロドロと私の理性が溶けていく。

この人になら、この人じゃなきや

(だ、めえ……)

最期の力を振り絞って離れようとする。

この人には悠里さんがいる、あんなにも慕ってくれる子がいるのに、そこに割り込むのは駄目。

そもそも生徒と教師なのだ、私達は。

こんな世界になっても越えてはイケない一線があるのに、それなのに私は、本田くんから離れられず力を抜いてしまった。

(あつ……)

ベキンとなにかが折れた、折れてしまった。

大事なものだ、私を、佐倉慈を教師としていたものが折れてしまった。

そうなつてしまったら——墮ちるしかない。

「本田くん……本田くん……」

心地が良い、折れたものなんてどうでもいい。

この人に包まれてるだけで幸せだ。

何も心配することはない、そもそも私がやったことはなんだろう？  
バリエード設置も胡桃さんの功績で、夜の見張りだってやったのは悠里さんだ。その他は全部、この人がやったこと。

何も言わなくてもこの人はやってくれる。なら任せてしまおう、大人の責任も、教師の責任も、もうどうでもいい。

私は彼に飼われよう。

「……犬、みたいだな」

「ワン！」

羞恥心はなかった。

異常な光景だろう、はたから見れば。

年下の男の子に媚びへつらって、なんのプライドもなく撫でられる。

ううん、撫でてくれる。まるで芸が終わった犬を撫でるようにじつくりと……。

「……本田くん、私は駄目な先生ですよ？ でもいいんですよ？ 駄目な先生で、甘えて、溺れてもいいんですよ？ ねえ本田くん？」

私は本心を口に出す。

彼にすがりついて、犬のように頭を擦り付けながら……彼は何も言わない、けれど頭を撫でてくれる。

「……みんながいる前では教師としている。これは見せるな」

「そう、よね。こんな状態見られたら困惑しちゃうわ……ああでも見せつけたら気持ちあるかも」

平然とそういう言葉を放つ私に頭の奥底で何かが叫ぶ。

……おそらくは残った私の『大人』の部分なのだろう。

大きな声で叫ぶそれを、私は強引にかき消して、彼の撫でる手にされるがままになる。

「そのマニュアルに何が書いてあるか、興味はない。金庫にでも隠せ」

「……そう、ね。誰かが見たら大変なものね」

そう。誰かが見て、誰かが『犬』になってしまったら困る。

恋人にはなれない、大切な人にはなれない、だけど『犬』としてなら彼はそばに置いてくれる。

こんな何も出来なくて、誰かにすぐることしか出来ない私を受け入れてくれるのは彼だけだ。

『犬』は一匹でいい、彼に撫でられるのも、抱きしめられるのも私だけでいい、私だけがいい。

「誰かに撫でられるのっていつ振りかしら……気持ちいい」

そのまま私は目を閉じて、彼の手だけを感じる。

ああ、こんなに簡単なことだったのになのに、何故私は大人でいた

のだろう。

こっちのほうが楽なのに……。

『そ——で——私はき——し——です』  
かき消したナニカという言葉が、頭にずっと残っていた。



## ラジオ姉貴回収く三日目終了まで

都合のいい女となったためぐねえがいるRTA、はっじまるよー。  
めぐねえを存分に撫で回して、とても教師とは思えない表情にさせたのを見届けたら胡桃・ゴリラモンド姉貴と合流します。

言ったとおりカーテンをつなぎ合わせてロープが出来ていますねえ!!

まあ、本来のチャートだところはりーさんに頼む予定だったんですが誤差だよ誤差！　こんな初期段階で覚醒りーさんとかそんな不安定要素組み込めるわけ無いだろ！（半ギレ）

「こんなのでいいか？」

おーええやん、なんぼなん？（ご満悦）

ちなみに道具作成ですがゆきちゃんには絶対にさせないでください。資材を無駄にされます（辛辣）

めぐねえにも頼まないように、一応作成できますがクツソ出来が悪いので掴まつてると破けます（一敗）

さて元々のチャート通りに駐車場に、ラジオ姉貴の車を誘導するのですが学校から離れた場所に止めてください。

カップオンヘリに巻き込まれて爆発炎上したら、終盤でもう気が狂うほど気が狂うっ！（一敗）

まずは上から駐車場を確認します、この時十体以上いれば掃除しましょう。

今回は……よし（NKNくんボイス）

五体ほどしかいません、甘ちゃんが、ペツ。

「……アタシもいけたらいいのにな」

おや？　知らぬ間に好感度稼いでいたようで信頼イベントみたいですね。

歯噛みしながら俯く胡桃ちゃんは新鮮でいいゾ〜これ。

ただ覚醒状態でないので、足手まといはNG。

んー、まあここはフオローしておきましょうか、選択肢選択肢……ろくなのがねえ!!　止めたくくなりますよ「寡黙」う〜。

「ここは「いてくれるだけでいい」にしときましょう……おっ？ ナンパかな？」

「は、はあ!? おまつ、お前、からかうなよ！ それにりーさんがいるだろ!」

巨乳もいいけど普乳もいいよね（守備力高め）

顔真っ赤にしながら腕をブンブン振り回す胡桃ちゃんかあいい（ホッコリ）。ただあの腕に当たると体力七割方持たかれないので距離をとりましょう。シヨタだと下手すると全損するから気をつけよう（一敗）

「……ったく、あといつまで半裸のままなんだよ、着とけ」

おっ、ありがとナス！

やっぱりゴリラは優しいんすねえ、ワイシャツをくれました。

完全に新しいものの装備するの忘れてましたね、半裸のまま夜中全力疾走とか露出狂かな？

「気をつけろよ、何かあったら駆けつけるからさ」

そう言つて手を伸ばしてくる胡桃ちゃんの手をとらずに、握りこぶしを突き出しましょう。

「んっ、なんか映画みたいだな」

そうすると胡桃ちゃんが同じように握りこぶしを突き出して、打ち合います。

普通に手握るのもいいんですが、僕は映画みたいでこっちのほうが好きです。

さて、胡桃ちゃんとの信頼イベが終わったら行きますよー、行きますよー1919。

昨日と同じ方法で玄関まで降りたら、校門までダッシュします。お昼過ぎなので学食と校庭に集まっているため、今現在は少ないですが、ここからはスピード勝負です。

どうしても車の音でかれらが集まってしまうため、下手すると囲まれて詰みます（一敗）

なので信頼イベントでレベルアップしたときに取得した、スキルポイントを使って「疾走」を取りましょう。

移動速度が早くなるスキルですが、忍者と合わさってスキルレベル2並みの速度になります。

サラマンダーよりはやーい！（YY）

校門を飛び越えたら、真っ直ぐラジオ姉貴の車を確認します。

運が悪いと黒塗りの高級かれらに絡まれています……ヨシ！（現場猫）

周りには誰もいませんので運転席のドアを叩いて、ラジオ姉貴に作戦を伝えましょう。

「……荷物はどうする？」

んなもん後だ、後。

物資回収は夜やります、下校すれば校内はほぼかれらがいなくなるため、比較的に安全に回収ができます。

とりあえずラジオ姉貴だけ安全地帯に行かせれば後はどうにでもなるんだよお!!（ガバチャー）

あと忘れないうちに車に置いてある自分のかばんは回収しましょう。ここでラジオ忘れて、後の休息のときガバツたやつ、いるらしいっすよ？（二敗）

「キミに頼り切りなのは申し訳ないけど……やるしかないか」

そうだよ。

覚悟が決まったのを見届けたら、車に乗って出発シンコー！イクゾー!!

アクセルを全開にして、敷地内に突っ込みます。その際、かれらを何体轢いたか覚えておきましょう。

五体以上轢いたら「修理」スキルを取ります。チャートのラジオ姉貴の車前提で考えてるから半壊したらリセットです。

「ついつ、たあっ!!」

駐車場にドリフトしながら停車したら、そのままドアを開けてスーパーヒーローランディングを行います。えっ？ RTA的に必要あるか？ ないです（断言）ただの趣味です（屑）

ただ早く行動ができるので、もたついてるラジオ姉貴が降りてくるまで残ってる五体を片付けましょう。

通常なら足払い↓暗殺コンボですが今回は「投擲」を取ってるため、暗殺しつつ近づいてきたら「投擲」でヘツシヨをキメましょう。

……あれ？ 「投擲」スキルと併用するともものっそい殲滅速度上がるんですがソレは。脳筋チャートから流用したのがまずかったのか、今後「投擲」は必ず取るようにします（チャート変更しながら）

「映画か何かかな？」

カツコイイダルルオ!? と冗談はさておき、しっかりと車のロックを確認したらラジオ姉貴を抱えて走ります。

「運搬」と「疾走」スキル取ってるから、ぶっちゃけ二人で走るより安定するんですね。

ただ筋力上げてないのでクツソスタミナ持ってかれるけど、この後休憩するからヘーキヘーキ。

「ま、待った!! 恥ずかしい!! 年下の男の子に抱えられるとか待って、シャワーとか浴びてないからその、わぷっ!？」

大人のお姉さんがワタワタする様子は可愛いですが、騒ぎすぎると寄ってくる奴らが要るのでお口チャックです。

そのまま走っていると生徒会室の窓が開いて、ゴリラがロープを垂らしてくれます。

ただ音に釣られて、登っていく予定の教室からかれらが手を伸ばしてくるかもしれないので、一階の教室を確認していなかったら、即座にジェットストリームアタックで二階に上がります。

さてまずはロープが垂れてる教室ですが……よし！ いねえ！ほらいくどー!!

「しっかりと捕まってるー!!」  
「た、頼んだよ!!」

さて適当な一体を釣って私も二階に上がりましょう。  
オーライオーライ、いやっふー!! (配管工ボイス)

さて次は二階の教室ですが……ボツチくんしかいませんねえ！  
とかいかいつまでうつむいてるんだアイツ (困惑)

運がいいゾ〜これ、オリチャーでもいけるやん。

「もうちよい！ もうちよいだから!!」

「あわ、あわっわわっわっ」

可愛い（小並感）

さてワタワタするラジオ姉貴がゴリラに回収されたのを見届けたら、二階の教室に入って帰りましょう。

オリチャーで不安でしたがなんとかかなりましたね、さて教室から出て三階へ向かいましょう。

ぬわああああああああああんつかれたもおおおおとおおおん（体力、スタミナレッドゾーン）

思わぬガバがありました、無事救出完了です……。

この後、夜中の回収に備えて休息を行います。

「忍者さんおかえり！」

「……マジで忍者なんだな」

ゆきちちゃんとチョーカー姉貴出迎えご苦労！ でも余裕ないから休ませて（気絶寸前）

フラフラと体を揺らしながら、生徒会室に入ります。

ドサリと床に座り込んで、バッグからラジオを出しましょう。

偉大なる先駆者様の動画を見てる方ならご存知でしょうが、クラシック鑑賞会と参りましょう。

休息と合わせて体力・スタミナの回復速度が上昇します。さらに時間が経てば音につられて学園生活部など生存者が来ますので好感度も上がって、うん美味しい！

さあ、みんな114514!!

「……………」

——静かな曲だ、疲れ切った心と身体が癒やされるような気がする

いやメッセージはいいねん、誰か来て！ 早く！ ねえ誰か！

「……………」

——音楽室があつたな、周囲の安全が確保出来たら演奏をやってもいいかもしれない

いや、あの……あのお!?

「……………」

—— スシが食べたい、まぐ……いやタマゴだな

…… (攻略wikiチラ見)

「……………」

—— スベシ、コロスベシ

はえー、全員生存ルートさらに開拓されてる。あつ、ショツピング  
モールルートもあんじゃん。隠しキャラルートもああくいいっすね  
え!! (wikiガン見)

「……………」

—— そろそろ休息もいいだろう、さあガンバルゾー!

おつ、そうだな (白目)

えー、第一回音楽鑑賞会でしたが、えー参加者は……誰一人来ませ  
んでした (無職ボイス)

どうしてっ! なんでこうなるのよっ! なんてっ! なんてっ  
! こんなのっ! どうしようもっ! ないじゃないっ! (りーさん  
ボイス)

何てことだ……君の罪(ガバチャー)は止まらない、加速する……つ  
! (AINボイス)

おかしい、本来なら全員集合、クラシック鑑賞しながら自己紹介の  
流れだったんですがどうしましょ……ま、まあ極稀に来ないってwi  
kiにあつたしそれを引いたんでしよう (楽観視)

さて休息が終わりましたら物資回収タイムです。

外を見て、完全に暗闇になっていることを確認してから回収メン  
バーに声をかけましょう。

覚醒りーさん! 胡桃ちゃん! ラジオ姉貴! イクゾお!!

本当は胡桃ゴリラ姉貴とラジオ姉貴と主人公の三人なのですが、今  
回は覚醒りーさんにも働いてもらいましょう……というか放置気味  
だからここいらで頼っておかないと暴走しちゃう (震え声)

「わかったわ……ゆきちちゃん、るーちゃんをお願いできる?」

「はあーい! るーちゃん、お姉ちゃんと一緒に待ってようか」

「……ゆきだけじゃ不安だ、私も見ておくよ」

「わ、私に任せないのっ!?!」

るーちゃんがふくれっ面でこちらに抱きつこうとしますが、ゆきちゃんとチヨーカー姉貴にドナドナされていきますねえ！ あとスルーされたためぐねえが涙目になってますねえ。

「にしてもこの人数で大丈夫かな？ 外は結構いたけど……」

「駄目だったら陽動とか考えないとだな……ですね」

「いいよ、タメ口で。こんな状況で歳もなにもないし、自然体で接してくれたほうが私もありがたいかな」

ヤダ、イケメン……とラジオ姉貴と胡桃ちゃんの会話を聞きつつ、いぎ鎌倉（出発）

ちなみに夜中回収しに行くことによって、夜にかれらが少なくなることも認知して♡が出来て一石二鳥です。

ただ油断されても困るので、三人には懐中電灯を渡しておきましょう。暗闇から出てきてガブリなんて事になったらリセットです。あと三人には運搬用のかばんも渡しておきましょう。

「……アイツら少くないか？」

「もしかして帰宅時間だから帰った、とかではないよ……ね？」

「わからないわ、けど油断せずにいきましょう」

よし！（フラグ完了）

とりあえずメイン火力要員に「夜は少なくなるかも……？」と思われるせっておけばOKです。

あとは何日かすれば自分たちで調べてわかってくれます。

主人公が言ってもいいですが、余計なこと喋りすぎて「さてはオメー黒幕だな？」と思われたらリセット案件ですので気をつけましょう。

無事に駐車場まで着いたら、ドゥンドゥン荷物を運び出しましょう。

ただ二人一組で、一人ずつ勝手に行かせたら噛まれたことがあるのでここは安定チャートでいきましょう。

「ふんぬらばっ！」

「……ええ……？」

ゴリラがかばん三つ装備してるんですがこれは……やべえな（素）

いつもはシャベルがあるので、一つか二つなんです。物が回収チャートではくるみちゃんにシャベル渡さずに運搬役に徹してもらったほうが早いかもしれませんね！

いやでも初期くるみちゃんはシャベルに依存してるので下手したらSAN値直葬されるかも。まあ、この走りが終わったら検証しましょう。

さて予想外なゴリラの力で早々と終わりそうなので、倍速をかけましょう。

少年少女運搬中

「こんなに……よく貯蔵しましたね」

「父さんが昔から集めてたんだ、ウチにまだあるからまた持ってくるよ」

(序盤にしては)膨大な物資に、メスイ……めぐねえ含めて目を輝かしています。

実際、一週間くらいは持つ程度には運んだので当面はバリケード強化などに力を入れられるのが、ラジオ姉貴回収チャートの強みですね。

さてここはドバーツと食料を使って豪華な食事をしましょう。

と言つてもレトルトですが、ここ二日間まともに飯を食べてない生活部メンバー、チョーカー姉貴、るーちゃん、そして人肌(意味深)に飢えていたラジオ姉貴は涙を流しながら食べます。

「う、ううう……」

「美味しい、美味しいよお」

「ぐすつ、ぐす……るーちゃん、食べたいものあったら言つてね、お姉ちゃんが取つてあげる」

「もみにー、それとつて」

「たかえちゃん、あーん」

「ばかつ、やめろつて！ 恥ずかしいから！」

「誰かと一緒に食べるつてこんながいいものなんだね」

なんか……温かい！

心温まるイベントですねえ、見飽きてるけど(屑発言)



腹いっぱい食べたなら、今日の見張りの話になります。

「数が少ないけど、一応いるよなあ」

「なら私が行くよ、新参者だ。それにこんなときくらいは大人をさせてくれよ」

「わ、私もいきます!!」

「おや、ラジオ姉貴はチャート通りでしたが、めぐねえもですか、大丈夫？ ナデナデする？」

「そ、それは朝にしてくれたら嬉しいかなあつて……ご褒美、くれますか?」

紅潮した顔で見るのは、いやマズイツすよ（BPO案件）

「とうかなんか精神的依存とは違う？ 違うくない？ んー？」

「んー、まあいいか、可愛いめぐねえ見れるし、セーフセーフ。とりあえずめぐねえを撫でたら、寝室（生徒会室）に向かいましよう。」

さてあとは寝袋に包まって寝るだけですが……。

「もみにー、いっしょにねよう!」

ああ〜~~~~~~~~パパになるう!

「るーちゃんの愛情度が高いと発生する添い寝イベントです。SAN値が回復する嬉しいイベントですなえ!」

「ちなみにこれを見た後にるーちゃんが死亡すると主人公が「るーちゃん（人形）」と添い寝する幻覚イベントを発生させるので、絶対に死なせないようにしましょう（厳命）。周りのSAN値も減少するからね、しようがないね。」

「たまにるーさんも乱入する通称姉妹丼も発生するのですが、今回は遠慮してもう寝てますなえ、相変わらず恐ろしいほど寝付きがいいですなえ。」

「周りも温かい目で見ていますので、寝袋に包まってそのまま寝ましょう。」

「それでは今回はキリが良いので……ここまでにいたしとごうごういただきます。」

\*\*\*

「……静かだね」

「そう、ですね」

月明かりだけが二人を照らしていた。

静か、そう静かだ。

時折唸り声が聞こえるが、それ以外は何も聞こえない。

「……佐倉、センサーだったっけ」

「佐倉で、いいですよ。姫美那（きみな） 貴桜（きお）さん」

「んじや佐倉さんでいいか」

姫美那は苦笑しながら、慈の肩を叩く。

対する慈も苦笑しつつも外を見る。

黒一色、電灯も何もついていない外を見てため息をつく。

「……生存者は、いないんでしょうか？」

「わからない、わからないけど今は生きてることを喜ぼうよ。この先がどうなるかはわからないけど、さ」

姫美那もため息をつく。

どうなるのかわからないのは確かだ。

ラジオ設備は送信も受信も出来た、最初の方は聞こえてた避難指示、政府の連絡なども2日でほぼすべて途絶えた。あるのは自動送信の音声のみ。

今、生きているのも奇跡のようなものだとわかっている。

「なるようになるしかないよ、なんせこっちは忍者がいるんだから」

「そう、ですね。彼ならどうにかしてくれます」

その時、姫美那は足を止めた。

慈も足を止め、振り返らずにじっと黙っている。

「……彼、紅葉くんに頼り切るのは駄目だよ。限界すれすれだ」

姫美那はそう断言する。

音楽が聞こえた、そう救出されてすぐ、水で喉を潤していた姫美那の耳にクラシックが聞こえてきた。

ラジオ音源で音質は悪かったが、落ち着いたテンポの音楽は心をたしかに癒やしてくれた。

姫美那を含めた生存者たちが集まって、音がなんなのか確かめようとして……扉を静かに閉めた。

「体はそうじゃなくても、心はボロボロなんだ」

静かに、身動き一つせずラジオの前で膝を抱えていた紅葉がいた。

その表情は何もなかった、そう何も浮かんでいなかったのだ。

ただじつとラジオを聞いている姿だけだったのに、誰もがその部屋に入ろうとせず紅葉が出てくるまで待つていた。

「確かに私達は紅葉くんに救われたよ？ でも、私達は大人なんだ、だから——」

「だから、なんです？」

ゾクリと姫美那の体が震えた。

振り返った慈の顔には笑顔があった、ただその笑顔が空虚なものに見えたのは見間違いだろうか？

たった数時間しか経っていないが、姫美那から見た慈は「良い人そうなおっちよこちよい」だった。とてもじゃないがこんな表情をする人だとは思えなかった。

「なんなんですか？ 彼が任せろと言ったんです、なら任せればいいじゃないですか」

「ツ!! それでも、それでもキミは——」

「ええ、教師、でしたよ」

寂しげに、それでいてなぜか清々するような声色でそう言った慈は顔を赤らめる。

「大人で、教師で、私が頑張らなきゃって思っていました」

「ならっ!!」

「でも彼は言わないけど赦してくれたんです、こんな教師にも大人にもなりきれなかった私を、赦してくれたんです」

ニコリと顔を赤らめながら慈はそう言っただけで体を震わせる。

今でも思い出せる、抱きしめられたときの感触、硬かった胸板、彼の匂い、音、目、手付き……ああ、なんて素晴らしかったんだと。

「ツツツツ」

「羨ましいですか？」

慈は臆面もなく言う。

姫美那は何か言おうとして口を必死に動かすが、何も言えずに項垂れる。

「……ああ、彼のせいじゃない、私が悪いんです。何も出来ず、生徒たちにやらせてしまった、こんなダメなやつを、彼は、紅葉くんは赦してくれた。だから、いいんです」

「……おかしいよ」

絞り出すように言う言葉に、慈は頷く。

「おかしいですよね、でも紅葉くんが赦してくれたからいいんですよ」  
「キミはっ!! キミはっ……っ……っ……!!!!」

声にならない叫び声が木霊する。

姫美那はガクリと膝をつく。慈はいつもと変わらぬ笑みで近づき、手を差し伸ばす。

「それでいいんです、あなたはそれで。私は……もう駄目なんです」  
「……………」

力なく項垂れる姫美那は手を伸ばそうとしない。

慈は月明かりを見上げながら、目を細める。

「早く朝にならないかな」

\*\*\*

彼とるーちゃん、ゆきちちゃんと柚村の寝息が聞こえたとき、私は隣で寝ているフリをしている胡桃を見る。

彼女は頷きながら、そつと寝袋から出る。

私も同じように起こさないように出て、部屋の外へと出て適当な教室に入る。

「……」

「……」

二人して黙ってしまふ。

ポツリと胡桃が言った。

「シャベル、貸してくれないか？」

視線が注がれるのは、私の手の中にあるシヤベル。

彼女の、大事な人を殺してしまったその凶器。

それを貸せと彼女は言う。

「りーさん頼むよ」

「なんで？」

理由なんて言わなくてもわかってる。

私より彼女のほうが身体能力は上だ。それに彼についていけるのもおそらく彼女だけだろう。

「確かにりーさんは、その、先輩を……あいつらを殺した経験がある。だからシヤベルを持つのはりーさんのほうがいい、けどあたしのほうが——」

「嫌よ」

はつきりと言う。

嫌、そう嫌なのだ。

だって、そうしたら……彼の隣に立つのは胡桃になってしまう。

「ツ!! りーさん、紅葉が好きなのはわかってる!! けどこれ以上アイツに負担はかけられない! 見ただろ? あいつ、あんなに心がロボロなのはまだ動こうとしてるんだ、あたしたちを守るために! なら、運動部だったあたしが動けたほうが負担は減る!」

「……だとしても、嫌よ」

醜い嫉妬心だと笑われるかもしれない、だけどそれだけじゃない。

嫌なのだ、天真爛漫に笑う胡桃が血に塗れる姿を見るのは。

「嫌なの……胡桃、人を殺す瞬間ってわかる?」

「そんなの——」

「わからない、ううん、わからなくていいの」

無我夢中だった、嫌悪感があった、彼以外に触れられたくなかった。

その結果、私は一人の人を殺した、殺してしまった。

殴った感触、飛び散った血しぶき、泣き叫ぶ胡桃、どれも今にして思えば後悔しかない。

「胡桃、実はね……私、もう一人殺したの」

「えっ……?」

そう、紅葉がるーちゃんを助けに行つた夜、巡回してた時に一人、バリケードにしがみついていたのを見つけた。

だから殴つた、バリケードが破られたらどうなるか思いたくもなくて。

シヤベルを抱えて、一突きした。

尖つた先がソレの頭部を貫いて、力なく後ろに倒れて、そして階段を転がっていった。

「……その時、どう思ったと思う?」

「どう、って」

「ああ、安心したって思ったのよ」

包み隠すこと無く、胡桃にそう言う。

安心した、安心してしまった。

人を、変わってしまったとしても人を一人殺して安心してしまった。

「四肢がね投げ出されて、動くことないの。……それを見て、安心してしまったのよっ」

「でも、それは……」

「仕方なかった、じゃああなたの先輩を殺したのも仕方なかったの?」

胡桃の表情が変わる。

真っ赤になつていき、口を開こうとして——我慢するようにな

つむいて、拳を握つた。

「違うわよね? そういうことよ、誰かを殺すっていうのはその気持ちを誰かにさせてしまうってことなの」

「……だから、だからって、だからってツ!!!」

「……紅葉の苦しみは想像がつかないわ」

ギユツとシヤベルを握りしめてそう言う。

私達を助けるためとはいえ、何人のかれらを彼は殺したのか想像もつかない。

仕方なかった、この一言ですべて解決するなら、彼があんな表情をしながら膝を抱えるわけがない。

……もう遅いのかも知れない、けれど私は——。

「私は、彼と一緒に地獄に落ちるわ、生きるために」

「リーさん……」

胡桃が顔を上げると涙がこぼれていた。

私はそれを隠すように抱きしめる。

「いいの、だから胡桃は今まで通りみんなの役に立って、彼と私がかれらからあなたたちを守るから」

「リー……さんっ!!」

ぎゅうつと抱きしめながら、声を押し殺して泣く胡桃の頭を撫でる。

そう、それでいいのよ胡桃……あなたは優しいまま——彼と私とるーちゃんのために動けばいい。

「リーさん、ごめん、ごめん……もみじい、ごめんよおっ!!」

「大丈夫、大丈夫よ——だから胡桃、これからもお願いね」

友情を感じてないわけじゃない、胡桃は大切な友人で生き残った仲間なのは間違いない。

だけどそれまででしかない。

もしもこの先、彼の隣に立とうとするなら……そう、ね。

「きつと先輩さんも見てるわ」

「うん……うんっ」

彼と同じ死に方がいいかしら、愛する二人はいつも一緒……ねっ、胡桃。

そういえば今日来た人、紅葉にお姫様抱っこされてたけどどういふことなのかしらね。

そして佐倉先生……はもう少し様子を見ましよう、もしも、もしも思ったとおりならその時は——。

「リーさん、リーさんっ」

「大丈夫よ、胡桃……だからね」

オネガイダカラ、ワタシヲクルワセナイデ。